

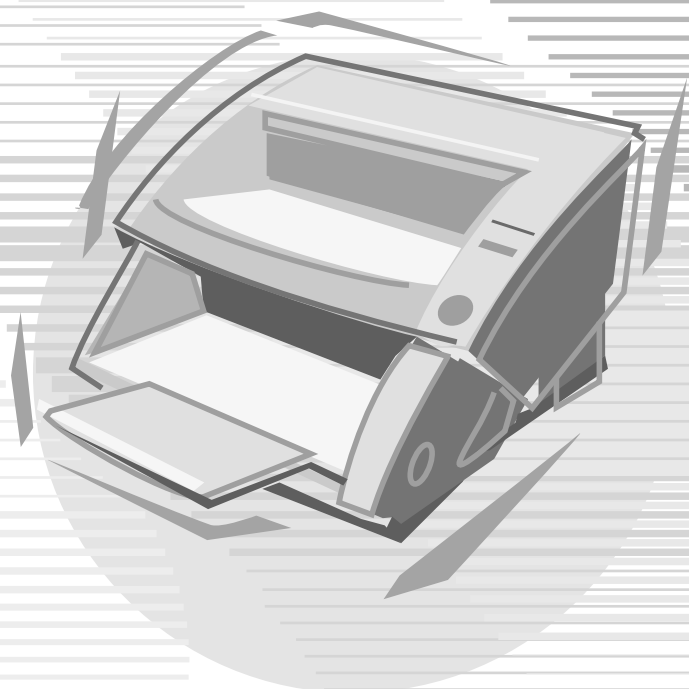
Canon

ドキュメントスキャナ

DR-5020/5080C

Scanning Utility 5000

使用説明書



ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も、大切に保管してください。

■ご注意

- ・ 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- ・ 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書の内容については万全を期して作成しましたが、運用した結果の影響につきましては、前項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

■複製についてのご注意

- ・ 紙幣、貨幣、政府発行の有価証券およびパスポート、または公共団体や民間団体発行の免許証、許可書、公文書、私文書などの複製は違法となり、処罰の対象となります。
- ・ 書籍、絵画、版画、地図、図面などの著作物の複製は、自己の使用以外の目的でお使いになることは禁じられていますのでご注意ください。

■商標および登録商標について

- ・ Microsoft Windows®、Windows NT® は、米国マイクロソフト社の米国および他の国における登録商標です。
- ・ ISIS® は、Pixel Translation A Division of ActionPoint Inc.の登録商標です。
- ・ Adaptec は、ADAPTEC Inc. の登録商標です。
- ・ IBMおよびPC/ATは、International Business Machines Corporationの登録商標です。
- ・ Pentium® は、米国 Intel 社の登録商標です。
- ・ その他、本書中の商品名や製品名は、各社の登録商標または商標です。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。

この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

■補修用性能部品について

本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造中止後 7 年間です。

はじめに

このたびはキャノンドキュメントスキャナ DR-5020/5080Cをお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。

DR-5020/5080Cの取扱説明書は、「Scanning Utility 5000使用説明書」(本書)の他に「DR-5020/5080C取扱説明書」、「ISIS/TWAIN Driver 使用説明書」があり3冊で構成されています。

本書では、DR-5020/5080Cに付属しているスキャニングユーティリティ「Scanning Utility 5000」の使用方法について説明しています。本スキャニングユーティリティの機能を十分に理解し、より効果的にご使用いただくために、本書および別冊の「DR-5020/5080C取扱説明書」を併せてお読みください。なお、本スキャニングユーティリティは、専用のスキャナドライバを使用するためISISドライバ、TWAINドライバといったスキャナドライバは必要ありません。

また、各説明書は、お読みになった後なくさないように必ず保管してください。

「Scanning Utility 5000使用説明書」(本書)、「DR-5020/5080C取扱説明書」、「ISIS/TWAIN Driver 使用説明書」のそれぞれの内容は次のとおりです。

Scanning Utility 5000 使用説明書

スキャナに付属のスキャニングユーティリティ「Scanning Utility 5000」の操作方法について説明しています。

DR-5020/5080C 取扱説明書

スキャナの接続方法や原稿のセット方法、紙づまりの処理など、スキャナの取扱いについて説明しています。スキャナの操作を始める前に必ずお読みください。

ISIS/TWAIN Driver 使用説明書

ISISドライバまたはTWAINドライバに対応したWindowsアプリケーションでスキャナを使う場合の操作方法について説明しています。

本書内の表記

ここでは、本書で使用している記号・表示について説明します。
本書をお読みになる前にひととおり目を通して、その意味を理解しておいてください。



取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。



取り扱いを誤った場合に、重傷を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。



参考になる情報の参照先を記載しています。(P.XX)のかっこ内の数字は参照先のページ数を示しています。



操作の参考になることや補足説明です。

■本機

DR-5020 および DR-5080C を総称して「スキャナ」と表記します。機種ごとの説明が必要なときには、DR-5020 および DR-5080C の機種名を記載します。

目次

はじめに	1
本書内の表記	2
第 1 章 Scanning Utility 5000 のインストールと基本操作	5
1.1 必要なシステム環境	6
1.2 Scanning Utility 5000 のインストール	7
インストールの準備	7
Scanning Utility 5000 のインストール	7
Scanning Utility 5000 のアンインストール	11
1.3 Scanning Utility 5000 の基本操作	12
起動と終了	12
◆起 動	12
◆終 了	12
Scanning Utility 5000 の画面の説明	13
◆メニューバー	14
◆ツールバー	16
第 2 章 原稿をスキャンする	17
2.1 スキャンの基本的なながれ	18
2.2 スキャンの手順	19
スキャナとコンピュータの準備	19
基本的なスキャン条件の設定	20
原稿セットとスキャン	21
◆複数枚の原稿をスキャンするとき	21
◆1 枚だけスキャンしてスキャン結果を確認するとき	24
スキャン結果の確認	25
スキャン結果の保存	26
◆保存形式について	26
◆スキャン結果をファイルに保存する(スキャン 1 ページの場合)	27
スキャン結果の印刷	28
保存したファイルを開く	29
2.3 いろいろなスキャン方法	30
給紙方法別のスキャン	30
◆給紙方法の選択	31
◆セミオートスキャン	33

◆オートスキャン	36
◆マニュアルスキャン	39
両面スキャン	42
スキャン結果の直接印刷	43
ファンクションシートの使用	44
◆スキャナコントロールシート	45
◆ファイル区切りシート	47
高速スキャン	48
ベリファイスキャン	50
◆ベリファイスキャンの設定をする	50
◆原稿の枚数を入力する	52
◆原稿をスキャンする	54
2.4 スキャン条件の設定	55
基本設定	56
詳細設定	58
インプリンタ／アドオン設定	62
バーコード読み取り設定	66
ガンマカーブ設定	71
ドロップアウト設定 (DR-5080C のみ)	73
ファンクションキーの割り当て	74
第3章 困ったときは	75
3.1 エラーメッセージが表示される時	76
3.2 スキャン結果がおかしいとき	78
索引	79

第 1 章

Scanning Utility 5000 の インストールと基本操作

ここでは、Scanning Utility 5000 をコンピュータにインストールする手順と、Scanning Utility 5000 の基本的な操作について説明します。

1.1 必要なシステム環境	6
1.2 Scanning Utility 5000 の インストール	7
1.3 Scanning Utility 5000 の 基本操作	12

1.1 必要なシステム環境

Scanning Utility 5000 を使うためには、以下のハードウェア、OS が必要です。

- Pentium 133MHz 以上の CPU および 64MB 以上のメモリを搭載した IBM PC/AT または互換コンピュータ
 - ・ OS : Microsoft Windows® 95/98/Me または Windows NT® 4.0 Workstation / Windows 2000 Professional / Windows XP
 - ・ ハードディスクの空き容量 : 100MB 以上 (インストール時 5MB 以上)
- SVGA 対応のディスプレイ
- OS に対応したキーボード、マウス、プリンタ、CD-ROM ドライブ (4 倍速以上)
- 動作確認済み SCSI カード
動作が確認されている SCSI カードは次のとおりです。
アダプテック社 AHA-1540 シリーズおよび AHA-2940 シリーズ
- SCSI-2 対応 SCSI ケーブル



メモ

- ・ Scanning Utility 5000 は専用のスキャナドライバを使用するので、ISIS ドライバ・TWAIN ドライバなどのスキャナドライバは必要ありません。
- ・ Scanning Utility 5000 をインストールすると、インストール先のフォルダとは別に、Windows フォルダの下に ¥ceiscan というフォルダが作成されます。
さらに、¥windows¥system の中に cei*.dll ファイルがコピーされます。
これらのファイルに変更を加えた場合、Scanning Utility 5000 が正常に動作しなくなりますのでご注意ください。
- ・ Windows の種類によっては ¥windows および ¥windows¥system フォルダの名称が異なります。¥windows および ¥windows¥system フォルダの名称をお使いの Windows のフォルダの名称に置き換えてお読みください。

1.2

Scanning Utility 5000 のインストール

1

Scanning Utility 5000 のインストールと基本操作

ここでは、Scanning Utility 5000 をコンピュータにインストールするための準備と、手順について説明します。

インストールの準備

Scanning Utility 5000 のインストール作業を始める前に、以下の点を確認してください。

- インストールするコンピュータの OS が Microsoft Windows® 95/98/Me または Microsoft Windows NT® 4.0 Workstation / Windows 2000 Professional / Windows XP であること



メモ

Windows NT® 4.0 Workstation, Windows 2000 Professional または Windows XP をご使用の場合は、アドミニストレータでログオンしてください。

- コンピュータとの接続

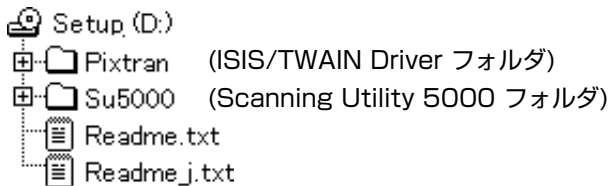
スキャナの接続方法については、別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」を参照してください。

- バックアップディスクの作成

Scanning Utility 5000 のインストールディスクのバックアップディスクを必ず作成し、インストールの作業には、バックアップディスクを使うようにしてください。バックアップディスクの作成方法については、Windows のヘルプを参照してください。バックアップディスクを作成したあと、原本のインストールディスクは大切に保管してください。

- セットアップ CD-ROM

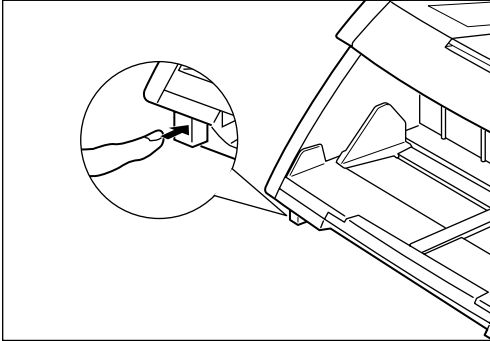
セットアップ CD-ROM は以下の階層で構成されています。インストールの前に [Readme_j.txt] を必ずお読みください。インストールを終了した後のセットアップ ROM は大切に保管してください。



Scanning Utility 5000 のインストール

Scanning Utility 5000 をコンピュータにインストールする手順について説明します。

1 スキャナの電源を ON にします。

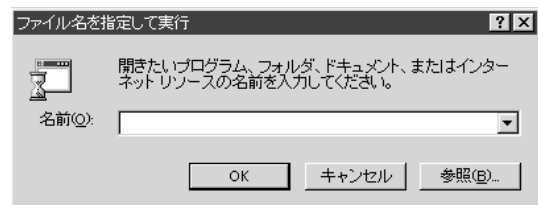


2 コンピュータの電源を ON にし、Windows を起動します。

3 セットアップ CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。

4 [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選択します。 お使いの Windows により画面が異なります。

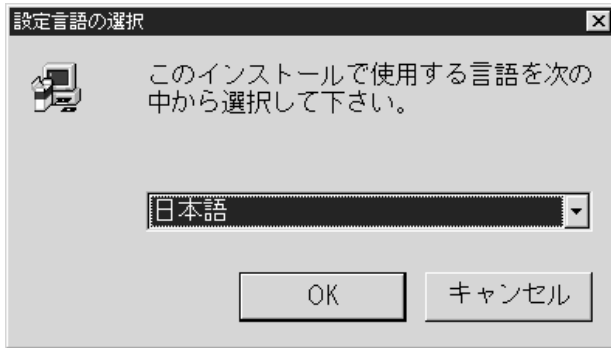
[Windows98]



5 [名前]の欄に、「D:¥su5000¥setup.exe」と入力し、[OK]をクリックします。

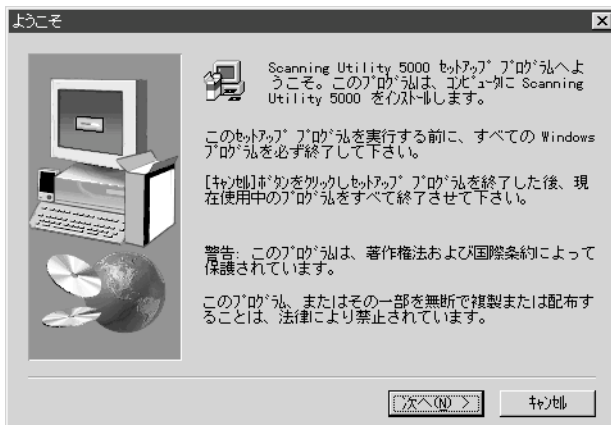
ここではCD-ROM ドライブをDとして説明します。

⇒ 「設定言語の選択」ダイアログが表示されます。



6 「日本語」を選択し、[OK]をクリックします。

⇒ 「ようこそ」ダイアログが表示されます。



7 [次へ]をクリックします。

⇒ 「インストール先の選択」ダイアログが表示されます。



8 表示されているインストール先のフォルダを確認し、[次へ]をクリックします。

インストール先のフォルダを変更する場合は[参照]をクリックし、インストール先のフォルダを指定します。

⇒ インストールが開始されます。

9 インストールが終了し、「セットアップの完了」ダイアログが表示されます。



10 [完了]をクリックし、インストールを終了します。

Scanning Utility 5000 のアンインストール

Scanning Utility 5000 をアンインストールする場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」を開き、[Scanning Utility 5000]を選択し、[追加と削除]をクリックしてください。



1.3

Scanning Utility 5000 の基本操作

ここでは、Scanning Utility 5000 の起動・終了方法と、Scanning Utility 5000 の画面について説明します。

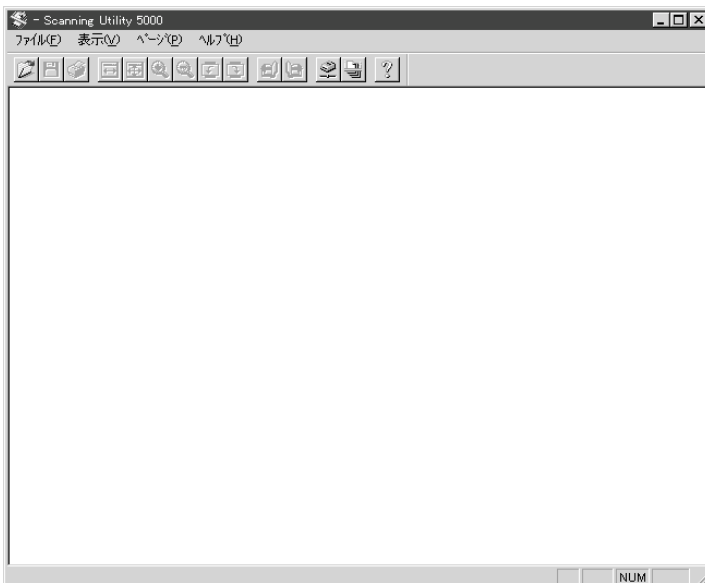
起動と終了

Scanning Utility 5000 を起動・終了します。

◆ 起 動

- 1 Windows の[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]—[Scanning Utility 5000]を選択します。

⇒ Scanning Utility 5000 が起動します。



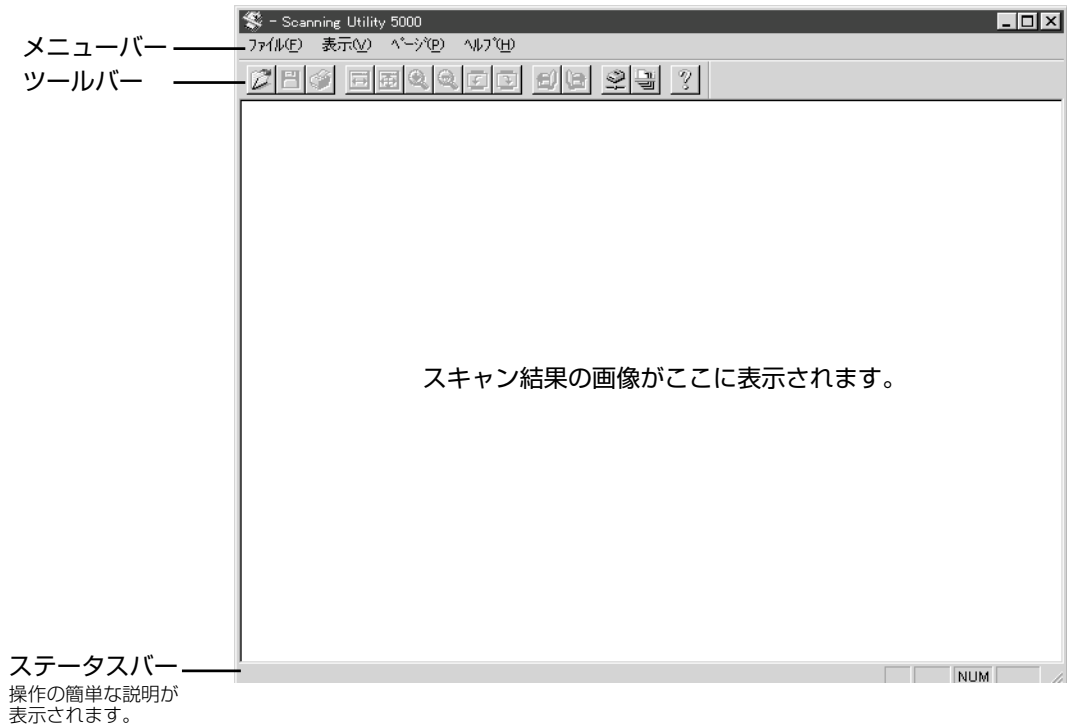
◆ 終 了

- 1 Scanning Utility 5000の画面で、[ファイル]—[アプリケーションの終了]を選択します。

⇒ Scanning Utility 5000 が終了します。

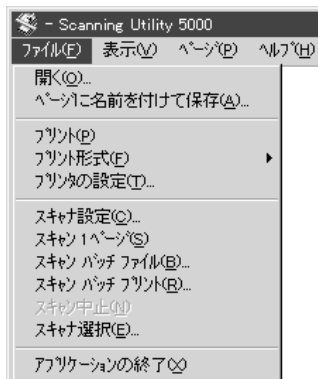
Scanning Utility 5000 の画面の説明

Scanning Utility 5000の画面に表示されるメニューとツールバーの機能について説明します。



◆メニューバー

[ファイル]メニュー



開く

保存されている画像を開きます。

ページに名前を付けて保存

スキャン1ページを行った後に、表示されているページに名前をつけて保存します。

プリント

画像をプリントします。

プリント形式

実寸に合わせる：プリントする用紙、読み込んだ解像度にかかわらず、原稿と同じサイズでプリントします。

用紙に合わせる：原稿のサイズがプリントする用紙より大きい場合に、用紙サイズに合わせてプリントします。

画素単位に出力：読み込んだ画像の1ドットをプリンタの1ドットで出力します。そのためドットの小さい高解像度プリンタで出力した場合、プリントサイズは小さくなります。

プリンタの設定

プリンタの設定を行います。プリンタ名には[通常使うプリンタ]に設定されているプリンタ名が表示されます。

スキャナ設定

スキャナの設定を行います。設定内容については「2.4 スキャン条件の設定」(P.55)を参照してください。

スキャン1ページ

1ページのみスキャンします。

スキャンバッチファイル

原稿をスキャンし、指定したファイルに保存します。

スキャンバッチプリント

原稿をスキャンし、[通常使うプリンタ]に設定されているプリンタに出力します。

スキャン中止

実行中のスキャンを中止します。

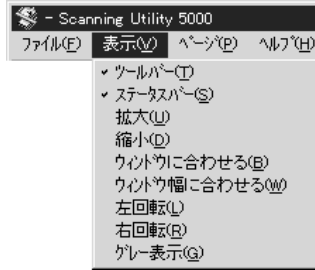
スキャナ選択

使用するスキャナを選択します。

アプリケーションの終了

Scanning Utility 5000 を終了します。

[表示]メニュー



ツールバー

ツールバーの表示／非表示を切り替えます。チェックがついているときは表示、ついていないときは非表示です。メニューをクリックするごとに、表示／非表示が切り替わります。

ステータスバー

ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。チェックがついているときは表示、ついていないときは非表示です。メニューをクリックするごとに、表示／非表示が切り替わります。

拡大

クリックするごとに、画像を拡大表示します。100%以上の拡大はできません。

縮小

クリックするごとに、画像を縮小表示します。

ウィンドウに合わせる

ウィンドウの大きさに合わせてページ全体を表示します。

ウィンドウ幅に合わせる

画像の幅をウィンドウの幅に合わせて表示します。

左回転

画像を左回り（反時計回り）に 90° 回転します。

右回転

画像を右回り（時計回り）に 90° 回転します。

グレー表示

白黒画像をグレースケールで表示します。

[ページ]メニュー



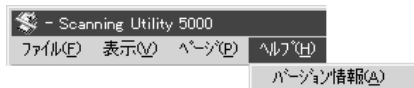
次のページ

次ページの画像を表示します。

前のページ

前ページの画像を表示します。















[ヘルプ]メニュー



バージョン情報

Scanning Utility 5000 のバージョン情報を表示します。

◆ ツールバー

-  保存されているスキャン画像を開きます。
-  スキャン1ページを行った後に、表示されているページに名前をつけて保存します。
-  スキャン結果の画像を印刷します。
-  画像の幅をウィンドウの幅に合わせて表示します。
-  ウィンドウの大きさに合わせてページ全体を表示します。
-  クリックするごとに、画像を拡大表示します。100%以上の拡大はできません。
-  クリックするごとに、画像を縮小表示します。
-  画像を左回り（反時計回り）に90°回転します。
-  画像を右回り（時計回り）に90°回転します。
-  前ページの画像を表示します。
-  次ページの画像を表示します。
-  スキャナの設定を行います。設定内容については「2.4 スキャン条件の設定」(P.55)を参照してください。
-  原稿をスキャンし、指定したファイルに保存します。スキャン手順については「2.2 スキャンの手順」(P.19)を参照してください。
-  Scanning Utility 5000 のバージョン情報を表示します。

第 2 章

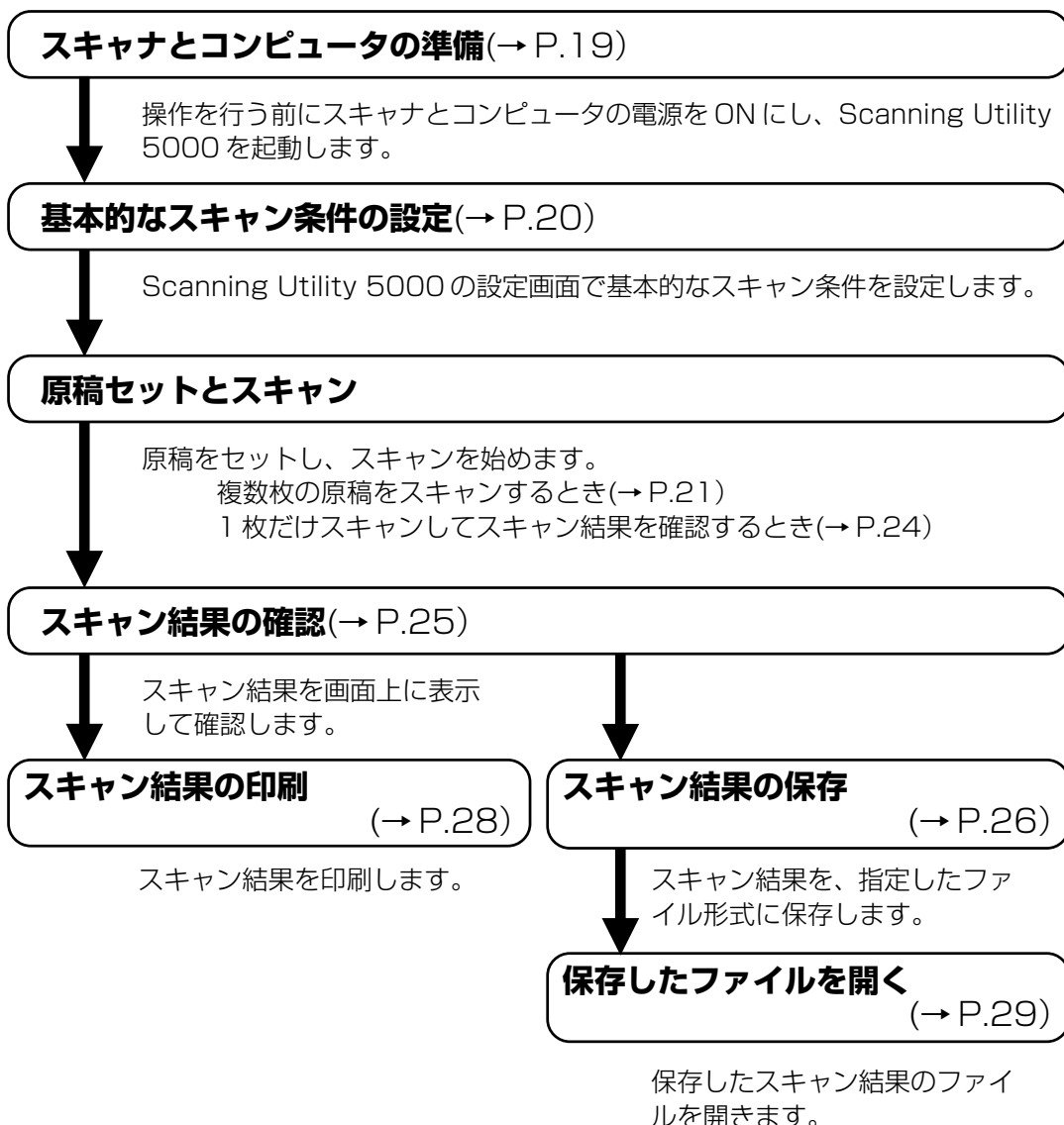
原稿をスキャンする

ここでは、Scanning Utility 5000 を使って原稿をスキャンする基本的な操作について説明します。

2.1 スキャンの基本的なながれ	18
2.2 スキャンの手順	19
2.3 いろいろなスキャン方法	30
2.4 スキャン条件の設定	55

2.1 スキャンの基本的なながれ

Scanning Utility 5000 を使って原稿をスキャンするときは、次のような手順で行います。

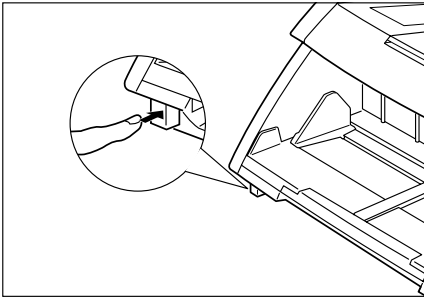


2.2 スキャンの手順

スキャナとコンピュータの準備

操作を行う前にスキャナとコンピュータの電源をONにし、Scanning Utility 5000を起動します。

- 1 スキャナの電源をONにします。

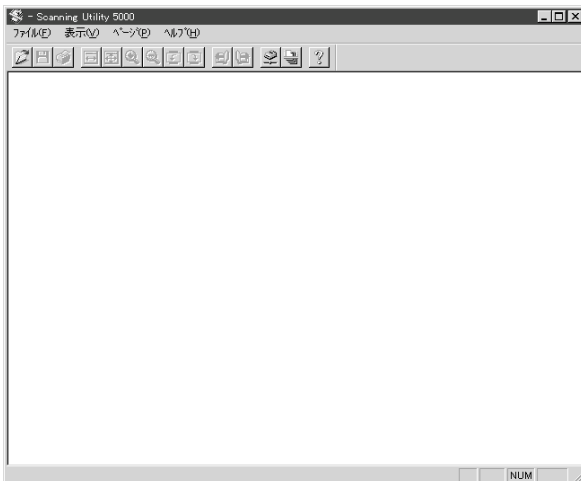


- 2 コンピュータの電源をONにします。

⇒ Windows が起動します。


- 3 [スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]–[Scanning Utility 5000]を選択します。

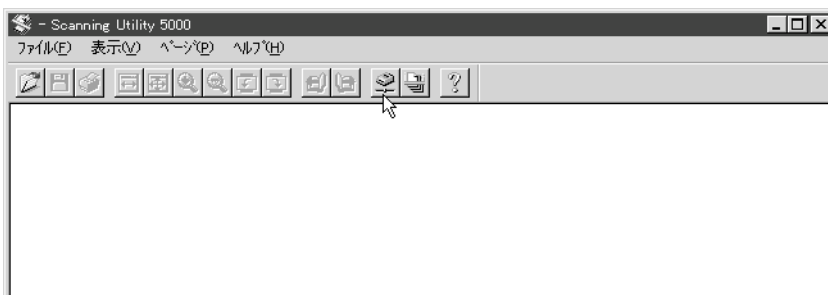
⇒ Scanning Utility 5000 が起動します。



基本的なスキャン条件の設定

「スキャナの設定」ダイアログで、基本的なスキャン条件を設定します。
基本的なスキャン条件の項目としては、イメージ選択、解像度、ページサイズ、明るさ、コントラストの5項目です。詳細設定については、「2.4 スキャン条件の設定」(P.55)を参照してください。

1 [ファイル]–[スキャナ設定]を選択するか、ツールバーのをクリックします。



⇒「スキャナの設定」ダイアログが表示されます。

2 基本項目を設定します。



- イメージ選択 : 読み取る画像のタイプを指定します。
- 解像度 : 解像度を指定します。
- ページサイズ : 読み取る原稿のサイズを指定します。
- 明るさ : 画像の明るさを調節します。
- コントラスト : 画像のコントラストを調節します。



メモ

設定内容の詳細については、「2.4 スキャン条件の設定」(P.55)を参照してください。

3 [OK]をクリックして操作画面に戻ります。

原稿セットとスキャン


原稿を原稿台にセットし、スキャンを行います。

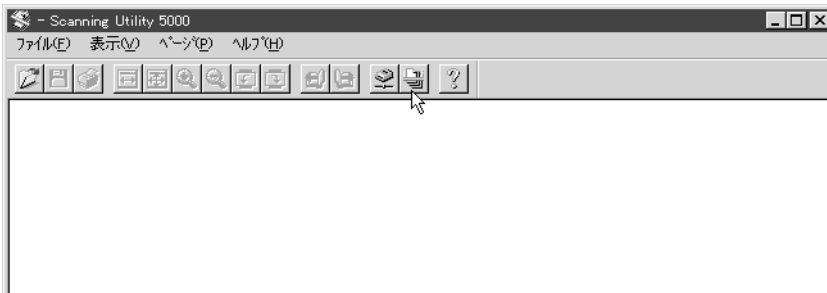
原稿のスキャン方法には、複数枚の原稿をスキャンする方法と、1枚だけスキャンしてスキャン結果を確認する方法があります。

◆複数枚の原稿をスキャンするとき

複数枚の原稿をスキャンする方法には「リモート」「オート」「セミオート」「マニュアル」の4つのモードがあり、それぞれのモードによって操作手順が異なります。

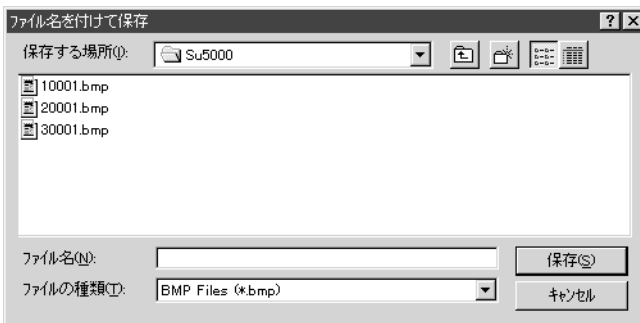
ここでは「リモートモード」の操作手順について説明します。その他のモードの操作手順については「2.3 いろいろなスキャン方法」(P.30)を参照してください。

- 1 [ファイル]ー[スキャンバッチファイル]を選択するか、ツールバーのをクリックします。



⇒「ファイル名を付けて保存」ダイアログが表示されます。

- 2 スキャンするファイルの名前と種類（保存形式）、保存場所を決め、[保存]をクリックします。



⇒「スタートスキャン」ダイアログが表示されます。



ヒント

・「ファイルの種類」には、保存できるファイル形式が表示されます。ファイル形式は、以下の4種類の中からスキャンするモードに合ったファイル形式が表示されます。
TIFF(*.tif), BMP(*.bmp), JBIG(*.jbg), JPEG(*.jpg)



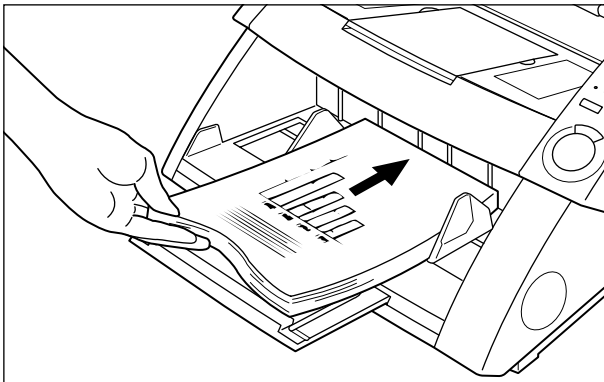
メモ

TIFF形式を選択すると、スキャンした複数ページ（両面含む）の画像が1つのTIFFファイル（マルチTIFF）として保存されます。

BMP、JPEG、JBIG形式を選択すると、保存先に指定したフォルダに原稿の各ページがそれぞれ別ファイルとして保存されます。ファイル名は、1ページ目の画像が指定した名称のファイルになり、そのあとのファイルに"0001","0002",…の連番が自動的に付加されたものになります。（たとえば「scan.bmp」というファイル名にしてBMP形式で保存すると、「scan.bmp」、「scan0001.bmp」、「scan0002.bmp」、…が作成されます。）

また、オートニューファイル機能やファイル区切りシートを使用してファイルを区切ると、区切りごとにフォルダが連番("0001","0002",…)で自動作成され、その中に画像が保存されていきます。

3 原稿を原稿台にセットします。



4 [スキャンスタート]をクリックします。



⇒ スキャンが始まります。



メモ

スキャンが始まらない場合は、スキャナの操作パネルにある[Feeding Option]のランプがすべて消えている（リモート）かどうかを確認してください。

5 セットした原稿がなくなるとスキャンが中断します。

⇒「スタートスキャン（中断）」ダイアログが表示されます。



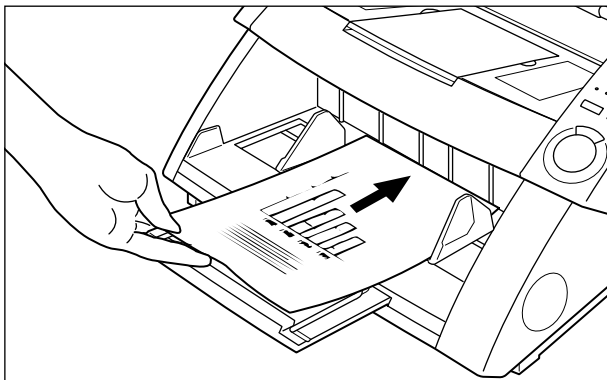
6 スキャンを続ける場合は、別の原稿を原稿台にセットして[スキャン継続]をクリックします。スキャンを終了する場合は、[スキャンストップ]をクリックします。

7 スキャン結果を確認します。(P.25)

◆ 1枚だけスキャンしてスキャン結果を確認するとき

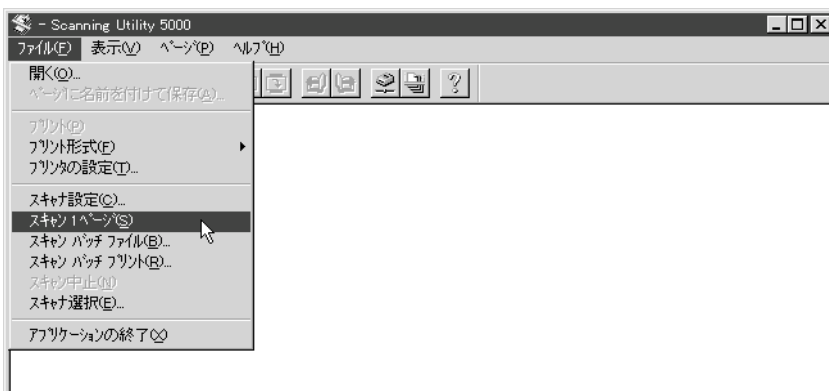
複数枚の原稿をスキャンする前に、原稿を1枚だけスキャンしてスキャン結果を確認することができます。この場合、スキャン結果は保存されませんので必要に応じてスキャン結果を保存してください。(P.26「スキャン結果の保存」)

1 原稿を原稿台に1枚セットします。



原稿を2枚以上セットした場合、1枚スキャンした後に原稿台が上がったままになります。この場合は、残っている原稿を引き抜いて原稿台を下げてください。

2 [ファイル]—[スキャン1ページ]を選択します。



⇒ 原稿がスキャンされます。

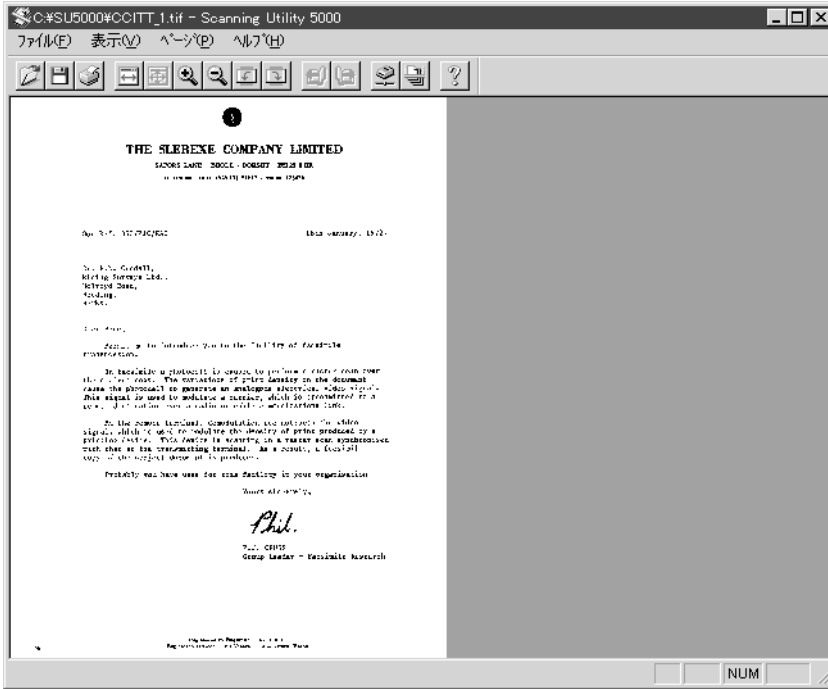
3 スキャン結果を確認します。(P.25)

4 必要に応じて、スキャン結果を保存します。(P.26)

スキャン結果の確認

スキャン結果を画面上に表示して確認します。

1 画面でスキャン結果を確認します。











2

原稿をスキャンする



ヒント

ツールバーのボタンを使って、画像を拡大／縮小したり、回転させたりして確認できます。以下のような機能が使用可能です。

-  画像の幅をウィンドウの幅に合わせて表示します。
-  ウィンドウの大きさに合わせてページ全体を表示します。
-  クリックするごとに、画像を拡大表示します。なお100%以上の拡大表示はできません。
-  クリックするごとに、画像を縮小表示します。
-  画像を反時計回りに90°回転します。
-  画像を時計回りに90°回転します。
-  次ページの画像を表示します。
-  前ページの画像を表示します。

スキャン結果の保存

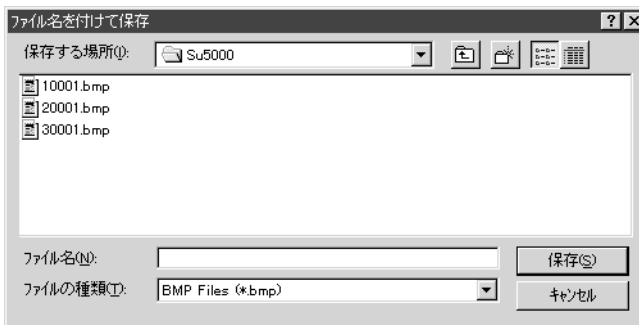
◆保存形式について

スキャン結果の画像を、TIFF(*.tif),BMP(*.bmp),JPEG(*.jpg),JBIG(*.jbg)の形式で保存できます。

なお、保存できるファイルの種類は、スキャンした際の「読み取りモード」の設定に応じて異なりますのでご注意ください。

読み取りモード	保存できるファイルの種類			
	BMP	JBIG	JPEG	TIFF(MMR)
白黒	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
白黒誤差拡散	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
グレースケール	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
カラー	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	

保存形式は、「ファイル名を付けて保存」ダイアログで指定します。



「ファイルの種類」でファイル形式を選択してください。



メモ

複数ページをスキャンした場合の保存について

複数ページ（両面含む）の原稿をスキャンした場合、TIFF形式で保存すると、複数ページの画像が1つのTIFFファイル(マルチTIFF)として保存されます。

BMP, JBIG, JPEG形式で保存すると、保存先に指定したフォルダに原稿の各ページがそれぞれ別ファイルとして保存されます。ファイル名は、1ページ目の画像が指定した名称のファイルになり、そのあとのファイルに"0001","0002",…の連番が自動的に付加されたものになります。(たとえば「scan.bmp」というファイル名にしてBMP形式で保存すると、「scan.bmp」、「scan0001.bmp」、「scan0002.bmp」、…が作成されます。)

また、オートニューファイル機能やファイル区切りシートを使用してファイルを区切ると、区切りごとにフォルダが連番("0001","0002",…)で自動作成され、その中に画像が保存されていきます。

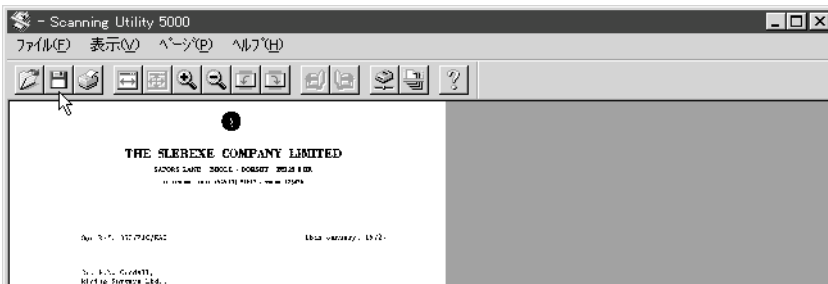
◆スキャン結果をファイルに保存する(スキャン1ページの場合)

[スキャン1ページ] (P.24)を行った場合は、スキャン結果の画像は保存されません。保存が必要な場合は、以下の手順で画像を保存してください。



複数ページをスキャンする場合(P.21)は、スキャンを行うと自動的に画像が指定されたファイルに保存されますので、改めて保存する必要はありません。

- 1 スキャン結果の画像が Scanning Utility 5000 の画面に表示されている状態で、[ファイル]—[ページに名前を付けて保存]を選択するか、ツールバーの をクリックします。

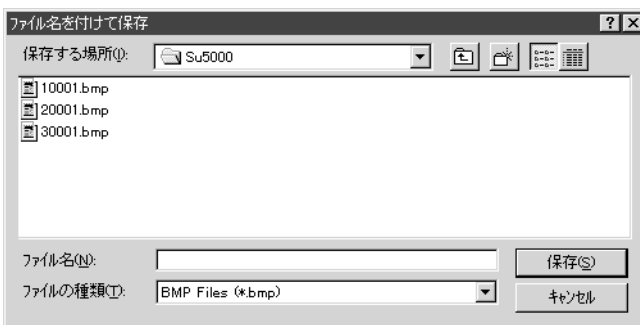


⇒「ファイル名を付けて保存」ダイアログが表示されます。



[ページに名前を付けて保存する]は、表示されているページのみを別ファイルとして保存します。複数ページをスキャンし、TIFF ファイル(マルチ TIFF)で1つのファイルとして保存されている画像をこのコマンドで保存する場合には、必ず別のファイル名で保存してください。同じファイル名で上書き保存を行うと、表示されていない別のページの画像は削除されますのでご注意ください。

- 2 ファイルの名前と種類(保存形式)、保存場所を決め、[保存]をクリックします。



⇒スキャン結果が保存されます。



ファイルの名前と種類(保存形式)、保存場所については、前ページの「保存形式について」をよくお読みください。


スキャン結果の印刷

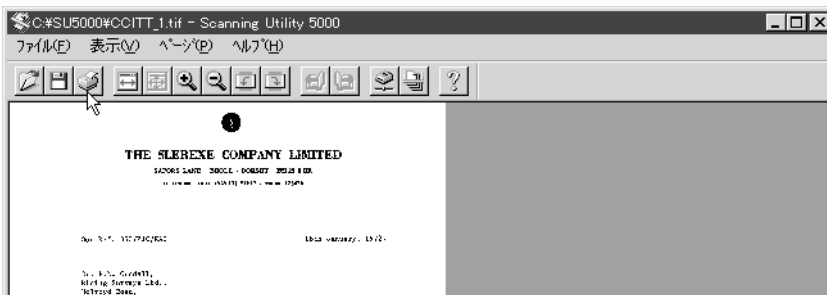
スキャン結果の表示されているページのみ印刷します。



印刷の形式は、以下の3種類があります。
印刷を実行する前に、[ファイル]—[プリント形式]で下記のいずれかを選択しておいてください。

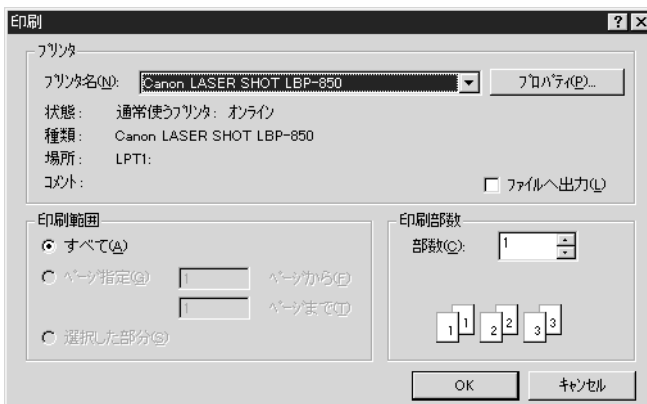
- ・実寸に合わせる
プリントする用紙、読み込んだ解像度にかかわらず、原稿と同じサイズで印刷します。
- ・用紙に合わせる
原稿のサイズがプリントする用紙より大きい場合に、用紙サイズに合わせて印刷します。
- ・画素単位に出力
読み込んだ画像の1ドットを、プリンタの1ドットで印刷します。

1 スキャン結果の画像が Scanning Utility 5000 の画面に表示されている状態で、[ファイル]—[印刷]を選択するか、ツールバーのをクリックします。



⇒印刷設定の画面が表示されます。

2 印刷の詳細を設定し、[OK]をクリックします。



⇒スキャン結果が印刷されます。




- ・プリンタのプロパティ画面はご使用のプリンタドライバによって異なります。詳しくは、ご使用のプリンタドライバの説明書またはヘルプファイルを参照してください。
- ・印刷範囲の設定では[すべて]が選択されていますが、実際は表示されているページのみ印刷されます。

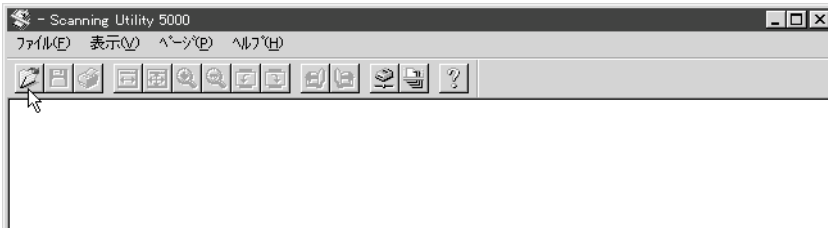
保存したファイルを開く

保存したスキャン結果のファイルを開きます。



Scanning Utility 5000で開くことのできる画像ファイルは、Scanning Utility 5000で保存した TIFF, BMP, JPEG, JBIG ファイルのみです。

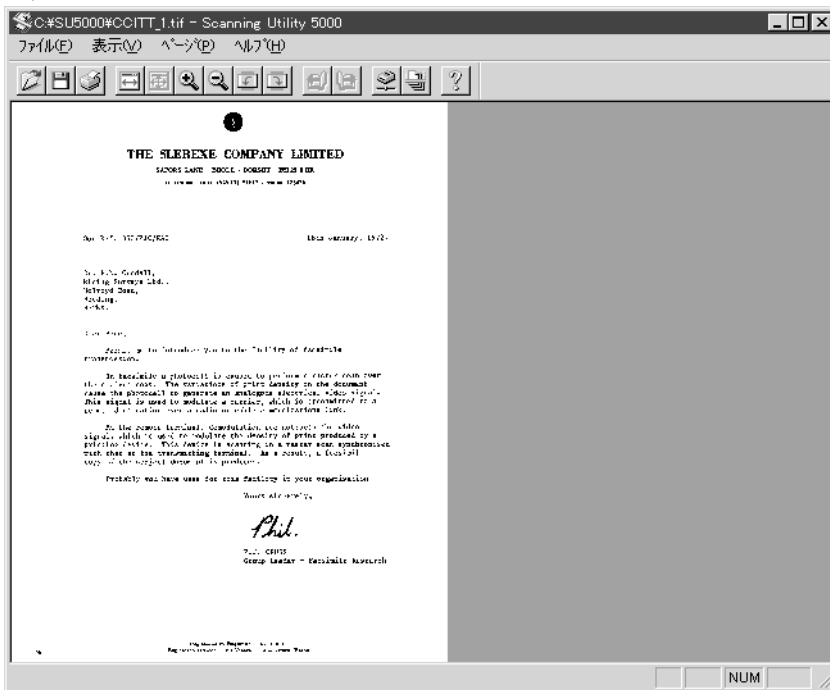
- 1 [ファイル]—[開く]を選択するか、ツールバーの  をクリックします。




⇒「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。

- 2 ファイルを選択し、[OK]をクリックします。

⇒選択したファイルが画面に表示されます。



TIFFファイル(マルチTIFF)を開いた場合、[ファイル]—[ページに名前を付けて保存]または  でファイルを上書き保存すると、表示されているページだけが保存され、それ以外のページの画像は削除されますのでご注意ください。

2

原稿をスキャンする

2.3 いろいろなスキャン方法

Scanning Utility 5000 では、目的にあわせて原稿の給紙方法を変更する、原稿の両面をスキャンする、高速でスキャンするなどのいろいろなスキャン方法が可能です。

ここでは、以下のスキャン方法について説明します。

- ・ 給紙方法別のスキャン(リモート、セミオート、オート、マニュアル)
- ・ 両面スキャン
- ・ スキャン結果の直接印刷(スキャンバッチプリント)
- ・ ファンクションシートの使用
- ・ 高速スキャン
- ・ ペリファイスキャン

給紙方法別のスキャン

原稿の紙質や種類に応じ、給紙方法を変えてスキャンすることができます。

選択できる給紙方法は次のとおりです。

・ リモート

スキャナに原稿をセットし、Scanning Utility 5000で「スキャンスタート」を指示すると、給紙が始まります。
複数枚の原稿をセットできます。



メモ

リモートでのスキャンの手順については「複数枚の原稿をスキャンするとき」(P.21)を参照してください。

・ セミオート

Scanning Utility 5000で「スキャンスタート」を指示し、スキャナの操作パネルのスタートキーを押すと、給紙が始まります。
複数枚の原稿をセットできます。

・ オート

Scanning Utility 5000で「スキャンスタート」を指示し、スキャナに原稿をセットすると、自動的に給紙が始まります。
複数枚の原稿をセットできます。

・ マニュアル

Scanning Utility 5000で「スキャンスタート」を指示し、原稿を1枚ずつ手差し給紙します。




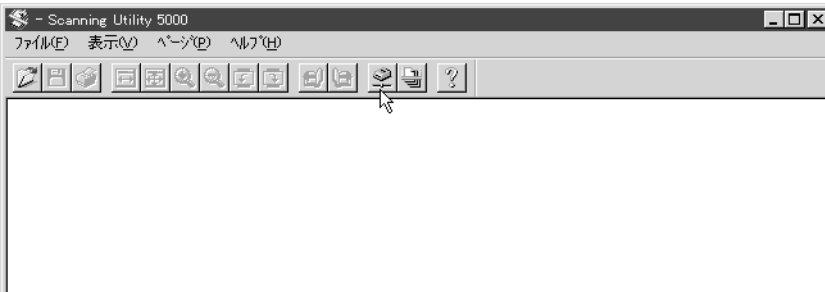
メモ

原稿のセット方法については、別冊の「DR-5020/5080C取扱説明書」の「3.2 原稿の給紙とスキャン」を参照してください。

給紙方法を選択する手順と、給紙方法（セミオート、オート、マニュアル）ごとのスキャンの手順を以下に説明します。

◆給紙方法の選択

- 1 [ファイル]ー[スキャナ設定]を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



⇒「スキャナの設定」ダイアログが表示されます。

- 2 「スキャナの設定」ダイアログで[詳細]をクリックします。



⇒「詳細設定」ダイアログが表示されます。

3 「フィーディングオプション」で給紙モードを選択します。



4 [OK]をクリックして「スキャナの設定」ダイアログに戻ります。

5 [OK]をクリックして操作画面に戻ります。




給紙方法は、スキャナ本体の操作パネルからも設定できます。操作パネルの Feeding Option キーを押して、目的の給紙方法のランプを点灯させてください。リモートにする場合は、どのランプも点灯していない状態にしてください。

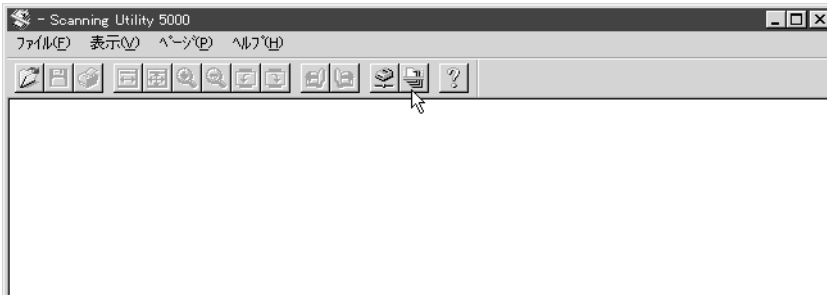
◆セミオートスキャン

給紙方法を「セミオート」にして原稿をスキャンします。

1 「給紙方法の選択」(P.31)の操作を行い、「セミオート」を選択します。

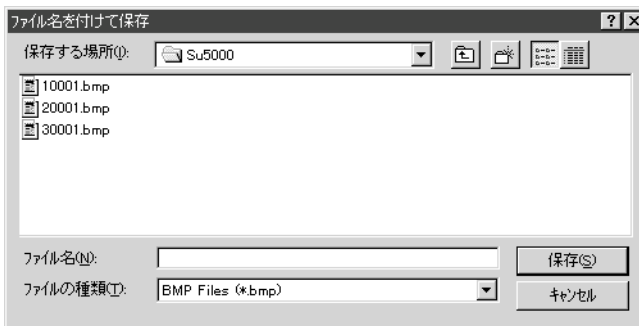
⇒ 操作パネルの [Semi-Auto] が点灯します。

2 [ファイル]－[スキャンバッチファイル]を選択するか、ツールバーのをクリックします。



⇒ 「ファイル名を付けて保存」ダイアログが表示されます。

3 スキャンするファイルの名前と種類(保存形式)、保存場所を決め、[保存]をクリックします。



⇒ 「スタートスキャン」ダイアログが表示されます。



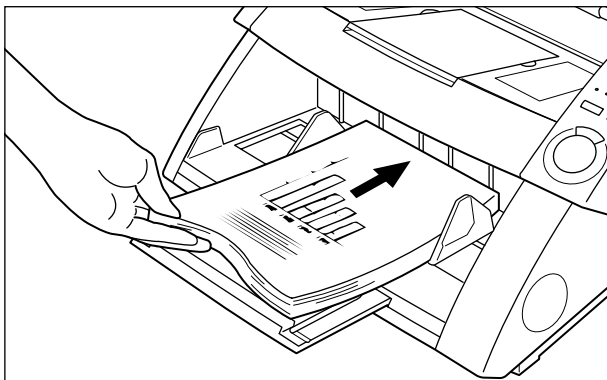
メモ

ファイルの名前と種類 (保存形式)、保存場所については「保存形式について」(P.26) をよくお読みください。

2

原稿をスキャンする

4 原稿を原稿台にセットします。

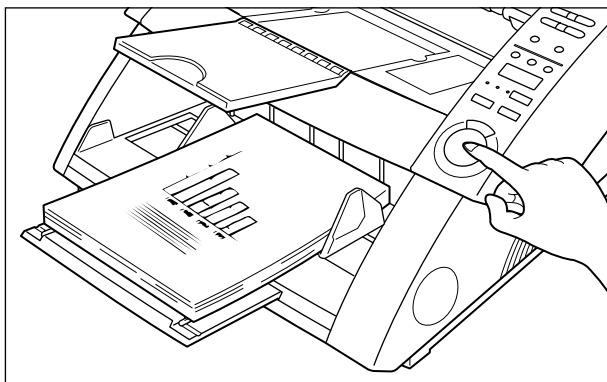


5 [スキャンスタート]をクリックします。



⇒ 操作パネルのスタートキーの中央が緑色になります。

6 スキャナ本体の操作パネルのスタートキーを押します。



⇒ スキャンが始まります。

原稿がなくなると原稿台が下がり、スキャナが待機状態になります。

7 次の原稿をセットしてスタートキーを押します。

8 原稿がなくなったら、ストップキーを押します。

⇒「スタートスキャン（中断）」ダイアログが表示されます。



9 スキャンを中止する場合は、[スキャンストップ]をクリックします。

スキャンを続ける場合は[スキャン継続]をクリックし、手順7に戻ります。


10 スキャン結果を確認します。(P.25)

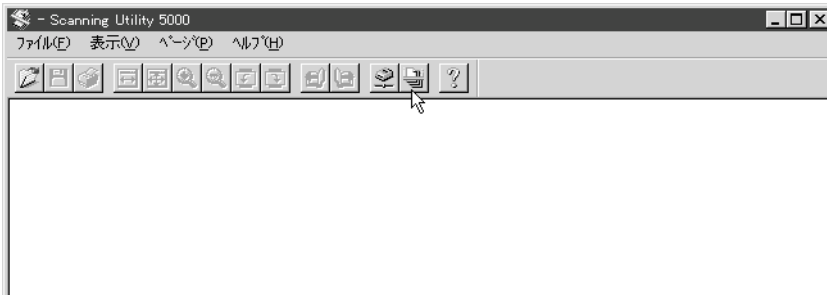
◆オートスキャン

給紙方法を「オート」にして原稿をスキャンします。

1 「給紙方法の選択」(P.31)の操作を行い、「オート」を選択します。

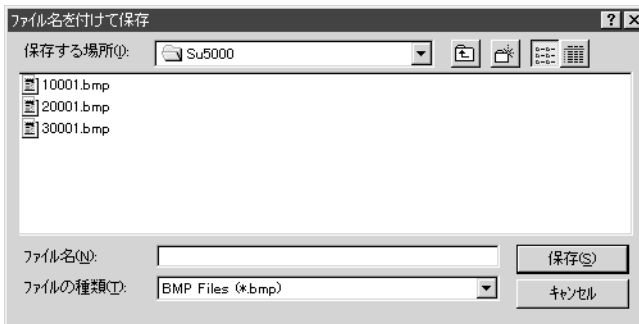
⇒ 操作パネルの [Auto] が点灯します。

2 [ファイル]—[スキャンバッチファイル]を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



⇒ 「ファイル名を付けて保存」ダイアログが表示されます。

3 スキャンするファイルの名前と種類(保存形式)、保存場所を決め、[保存]をクリックします。



⇒ 「スタートスキャン」ダイアログが表示されます。



メモ

ファイルの名前と種類（保存形式）、保存場所については「保存形式について」(P.26) をよくお読みください。

4 [スキャンスタート]をクリックします。



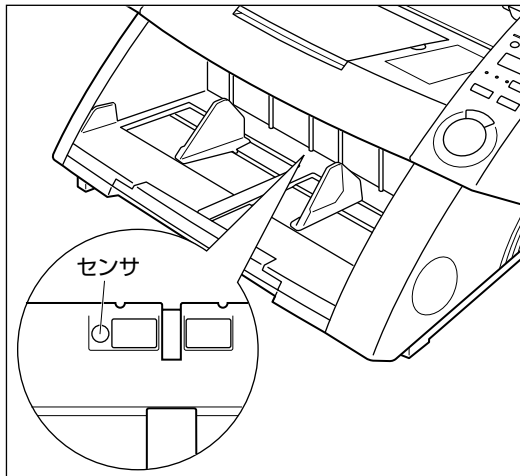
⇒ 操作パネルのスタートキーの中央が緑色になります。



注意

給紙方法が「Auto」の場合は、原稿台の下図の位置にあるセンサが原稿を自動的に検知し、スキャンを開始します。

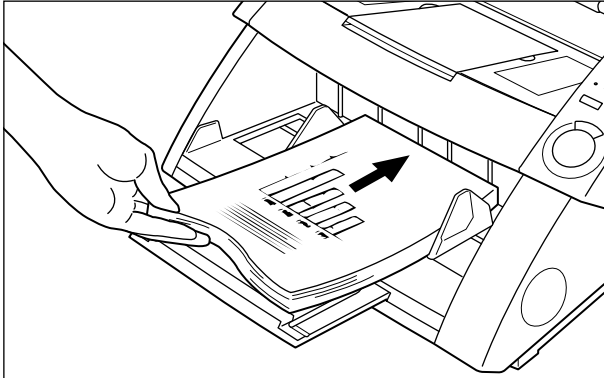
スキャン開始の指示をした後にセンサ部分をふさぐと、原稿がセットされたものと誤認識して原稿台が自動的に動き出すので、原稿以外のものでセンサ部分をふさがないようにご注意ください。



2

原稿をスキャンする

5 原稿を原稿台にセットします。



⇒ スキャンが始まります。

原稿がなくなると原稿台が下がり、スキャナが待機状態になります。

6 次の原稿をセットします。

7 原稿がなくなったら、ストップキーを押します。

⇒ 「スタートスキャン (中断)」ダイアログが表示されます。



8 スキャンを中止する場合は、[スキャンストップ]をクリックします。

スキャンを続ける場合は[スキャン継続]をクリックし、手順5に戻ります。


9 スキャン結果を確認します。(P.25)

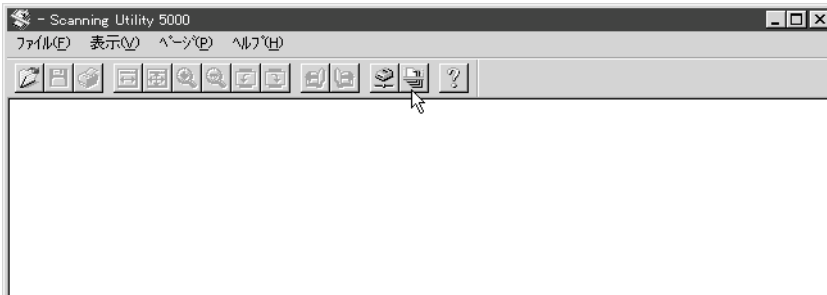
◆マニュアルスキャン

原稿を手差しで1枚ずつセットしながらスキャンします。

1 「給紙方法の選択」(P.31)の操作を行い、「マニュアル」を選択します。

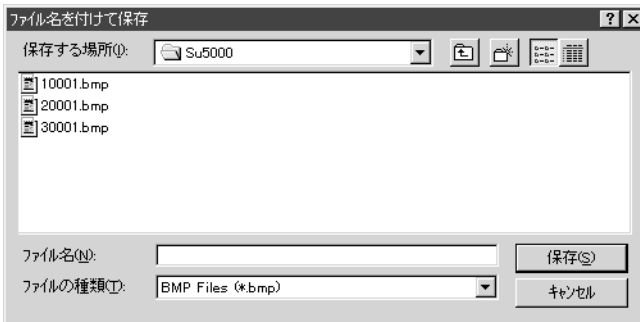
⇒ 操作パネルの [Manual] が点灯し、原稿台が上がります。

2 [ファイル]—[スキャンバッチファイル]を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



⇒ 「ファイル名を付けて保存」ダイアログが表示されます。

3 スキャンするファイルの名前と種類(保存形式)、保存場所を決め、[保存]をクリックします。



⇒ 「スタートスキャン」ダイアログが表示されます。



メモ

ファイルの名前と種類（保存形式）、保存場所については「保存形式について」(P.26)をよくお読みください。

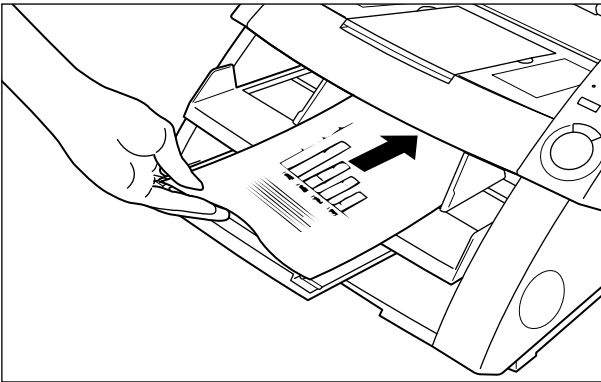
2

原稿をスキャンする

4 [スキャンスタート]をクリックします。



5 原稿を原稿台に1枚セットします。



⇒ 原稿がスキャンされます。その後、スキャナが待機状態に戻ります。

6 残りの原稿を1枚ずつセットし、スキャンします。

7 原稿がなくなったら、ストップキーを押します。

⇒ 「スタートスキャン (中断)」ダイアログが表示されます。



- 8 スキャンを中止する場合は、[スキャンストップ]をクリックします。
スキャンを続ける場合は[スキャン継続]をクリックし、手順5に戻ります。



メモ

スキャンが終了しても、原稿台はマニュアルスキャンを解除するまで下がりません。
Feeding Option キーまたは「給紙方法の選択」(P.31)でマニュアルスキャンを解除してください。

- 9 スキャン結果を確認します。(P.25)

両面スキャン

原稿の両面をスキャンすることができます。

両面スキャンの操作は、通常のスキャンと同じ手順で行い、スキャン開始の指示をする際に「両面読み取り」を指定します。

1 選択している給紙方法に応じて、スキャンの設定および操作を行います。

手順については各々のページを参照してください。

リモートの場合 : 「複数枚の原稿をスキャンするとき」(P.21)

セミオートの場合 : 「セミオートスキャン」(P.33)

オートの場合 : 「オートスキャン」(P.36)

マニュアルの場合 : 「マニュアルスキャン」(P.39)

2 「スタートスキャン」ダイアログが表示されたら、[フィーダー]の▼をクリックし、[両面]を選択し、スキャンを行います。



メモ

- ・ スキャナ本体の操作パネルでも、両面スキャンの設定ができます。操作パネルの片面／両面キーを押して[Duplex]を選択してから、スキャンの操作(上記の手順 1)を行ってください。
- ・ ファンクションシート(スキャナコントロールシート)を利用して両面スキャンをする方法もあります。両面モード用のスキャナコントロールシートを原稿の先頭にセットしておくで、自動的に原稿の両面がスキャンされます。詳しくは、「ファンクションシートの使用」(P.44)および別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」を参照してください。

スキャン結果の直接印刷

原稿をスキャンし、スキャン結果をそのまま印刷します。
スキャン結果はファイルには保存されません。



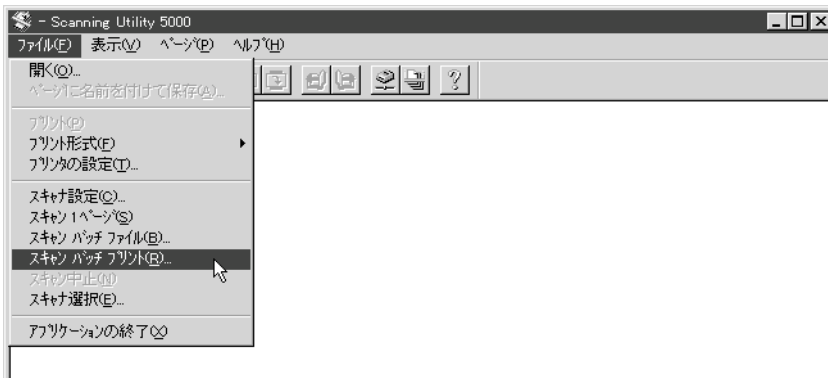
メモ
スキャン結果は、「通常使うプリンタ」に設定されているプリンタで自動的に印刷されます。
[ファイル]ー[プリンタの設定]で、使用するプリンタを前もって設定しておいてください。

1 選択している給紙方法に応じて、スキャナの設定および操作を行います。

手順については各々のページを参照してください。

- リモートの場合 : 「複数枚の原稿をスキャンするとき」(P.21)
- セミオートの場合 : 「セミオートスキャン」(P.33)
- オートの場合 : 「オートスキャン」(P.36)
- マニュアルの場合 : 「マニュアルスキャン」(P.39)

2 [ファイル]ー[スキャンバッチプリント]を選択します。



⇒ 原稿がスキャンされ、「通常使うプリンタ」に設定されているプリンタで印刷されます。

ファンクションシートの使用

本スキャナに同梱されているファンクションシートを使用して、種類の違う原稿、片面原稿と両面原稿などをスキャンを途中で中断することなく一度に読み取ることができます。ファンクションシートには次の5種類があります。

・スキャナコントロールシート

原稿をスキャンするモードをコントロールするためのシートで、以下のスキャンモードに対応したシートが用意されています。

両面モード用

原稿の両面をスキャンするときに使用します。スキャンする原稿の前に入れて、原稿とともにスキャナにセットしてください。

片面モード用

原稿の片面をスキャンするときに使用します。スキャンする原稿の前に入れて、原稿とともにスキャナにセットしてください。

写真モード用

写真のような中間調を持った原稿や、文字と写真が混在している原稿を写真モードでスキャンするときに使用します。スキャンする原稿の前に入れて、原稿とともにスキャナにセットしてください。

このシートは、アプリケーション側で「読み取りモード」の設定を「2値」にしている場合のみ有効です。設定がグレースケール、カラーの場合は、セットしても無視されます。

文字モード用

文字だけの原稿をスキャンするときに使用します。スキャンする文字原稿の前に入れて、原稿とともにスキャナにセットしてください。

このシートは、アプリケーション側で「読み取りモード」の設定を「2値」にしている場合のみ有効です。設定がグレースケール、カラーの場合は、セットしても無視されます。

・ファイル区切りシート

原稿の途中で、スキャン結果が保存されるファイルを自動的に区切りたいときに使用します。区切る文書の先頭に入れて原稿とともにスキャナにセットしてください。




メモ

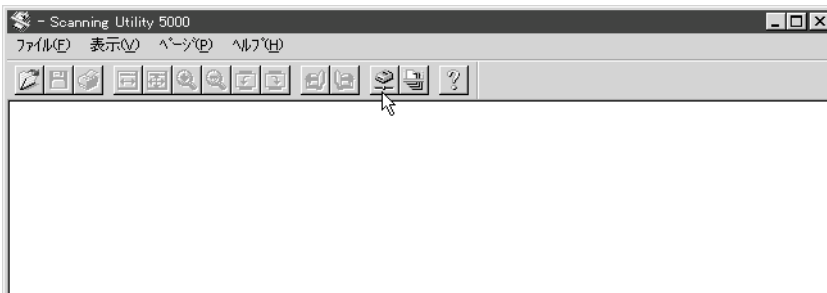
- ・各シートの詳細については、別冊の「DR-5020/5080C取扱説明書」、またはファンクションシートの説明書を参照してください。
- ・ファンクションシートは、サイズの異なる原稿と混載してスキャンすることもできますが、なるべく原稿と同じサイズのシートを使うようにしてください。

それぞれのファンクションシートを使用して原稿をスキャンする場合の手順は以下のとおりです。

◆スキャナコントロールシート

スキャナコントロールシートを使う場合は、シートを検知する方式を前もって選択してから原稿をスキャンします。

- 1 「ファイル」-「スキャナ設定」を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



⇒「スキャナの設定」ダイアログが表示されます。

- 2 「スキャナの設定」ダイアログで「詳細」をクリックします。



⇒「詳細設定」ダイアログが表示されます。

3 コントロールシートの検知方法を選択します。



- ・ 検知しない
スキャナコントロールシートを検知しません。
- ・ 検知して、記録する/スキャンを継続する
スキャナコントロールシートの内容も画像として記録し、スキャンを継続します。
- ・ 検知して、記録しない/スキャンを継続する
スキャナコントロールシートの内容は画像として記録せず、スキャンを継続します。
- ・ 検知して、記録する/スキャンを停止する
スキャナコントロールシートの内容も画像として記録し、スキャンを停止します。
- ・ 検知して、記録しない/スキャンを停止する
スキャナコントロールシートの内容は画像として記録せず、スキャンを停止します。

4 [OK]をクリックして「スキャナの設定」ダイアログに戻ります。

5 [OK]をクリックして操作画面に戻ります。

6 コントロールシートを含む原稿をスキャンします。

◆ファイル区切りシート

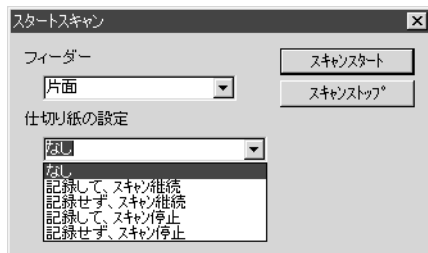
ファイル区切りシートを使う場合は、通常のスキャンと同じ操作を行い、スキャン開始の指示をする際に検知方法を指定します。

1 選択している給紙方法に応じて、スキャナの設定および操作を行います。

給紙方法の手順については各々のページを参照してください。

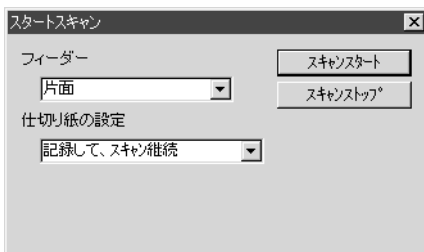
- リモートの場合 : 「複数枚の原稿をスキャンするとき」(P.21)
- セミオートの場合 : 「セミオートスキャン」(P.33)
- オートの場合 : 「オートスキャン」(P.36)

2 「スタートスキャン」ダイアログが表示されたら、[仕切り紙の設定]の ▾ をクリックし、検知方法を選択します。



- ・なし
ファイル区切りシートを検知しません。
- ・記録して、スキャン継続
ファイル区切りシートの内容も画像として記録し、スキャンを継続します。
- ・記録せず、スキャン継続
ファイル区切りシートの内容は画像として記録せず、スキャンを継続します。
- ・記録して、スキャン停止
ファイル区切りシートの内容も画像として記録し、スキャンを停止します。
- ・記録せず、スキャン停止
ファイル区切りシートの内容は画像として記録せず、スキャンを停止します。

3 [スキャンスタート]をクリックします。




高速スキャン

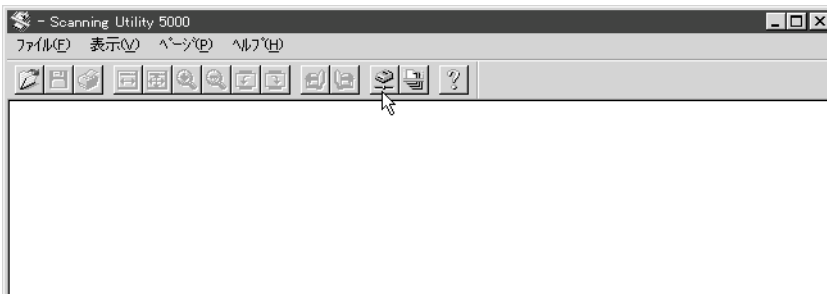
原稿を高速でスキャンします。

原稿の搬送速度を上げて読み取り時間を短縮しますが、画質は若干劣化します。



高速スキャンは、解像度を 200dpi または 300dpi に設定している場合のみ実行できます。200dpi の場合は、原稿を 200 × 100dpi (横 × 縦) で読み取り、200 × 200dpi で出力します。300dpi の場合は、原稿を 300 × 150dpi (横 × 縦) で読み取り、300 × 300dpi で出力します。

- 1 [ファイル] - [スキャナ設定] を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



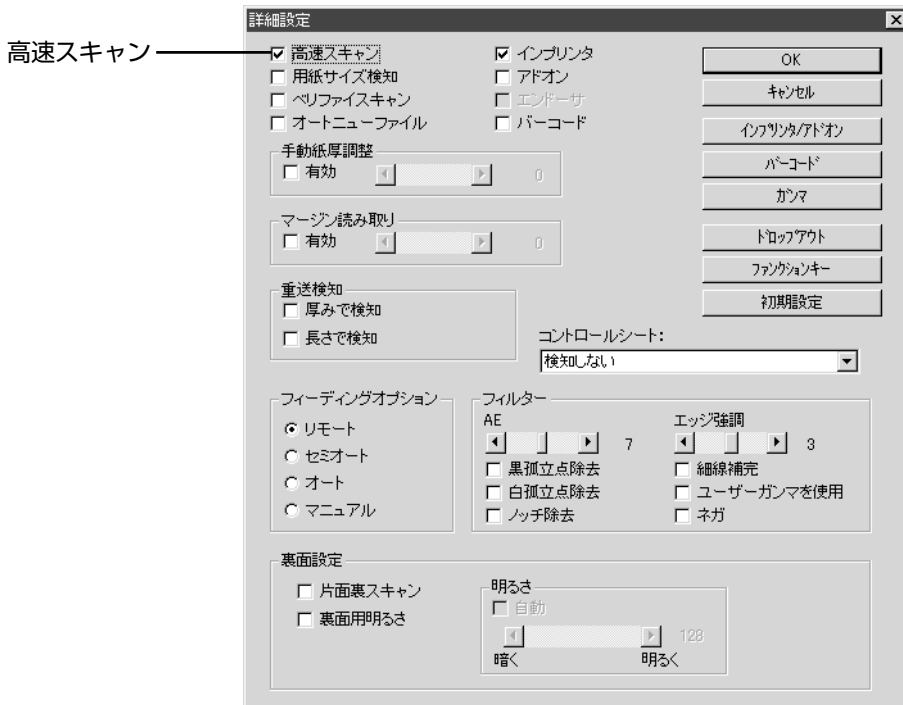
⇒ 「スキャナの設定」ダイアログが表示されます。

- 2 「スキャナの設定」ダイアログで [詳細] をクリックします。



⇒ 「詳細設定」ダイアログが表示されます。

3 「高速スキャン」をチェックして選択します。



4 [OK]をクリックして「スキャナの設定」ダイアログに戻ります。

5 [OK]をクリックして操作画面に戻ります。

6 選択している給紙方法に応じて、スキャンを行います。


手順については各々のページを参照してください。

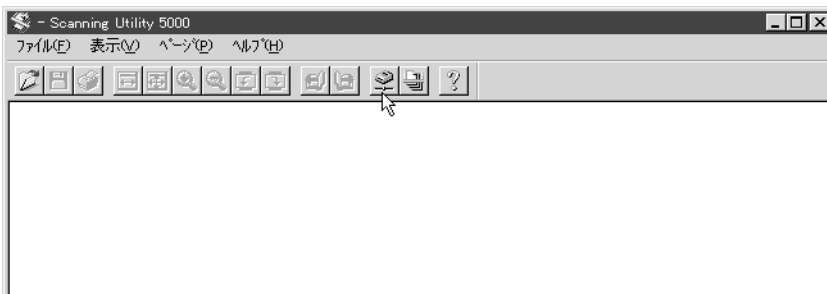
- リモートの場合 : 「複数枚の原稿をスキャンするとき」(P.21)
- セミオートの場合 : 「セミオートスキャン」(P.33)
- オートの場合 : 「オートスキャン」(P.36)
- マニュアルの場合 : 「マニュアルスキャン」(P.39)

ベリファイスキャン

ベリファイスキャンは、前もって入力（またはカウント）した原稿の枚数と、実際にスキャンした原稿の枚数を照合する機能です。入力した原稿の枚数とスキャンした原稿の枚数に違いがあった場合は、エラーメッセージが表示されます。

◆ベリファイスキャンの設定をする

- 1 [ファイル]－[スキャナ設定]を選択するか、ツールバーの  をクリックします。



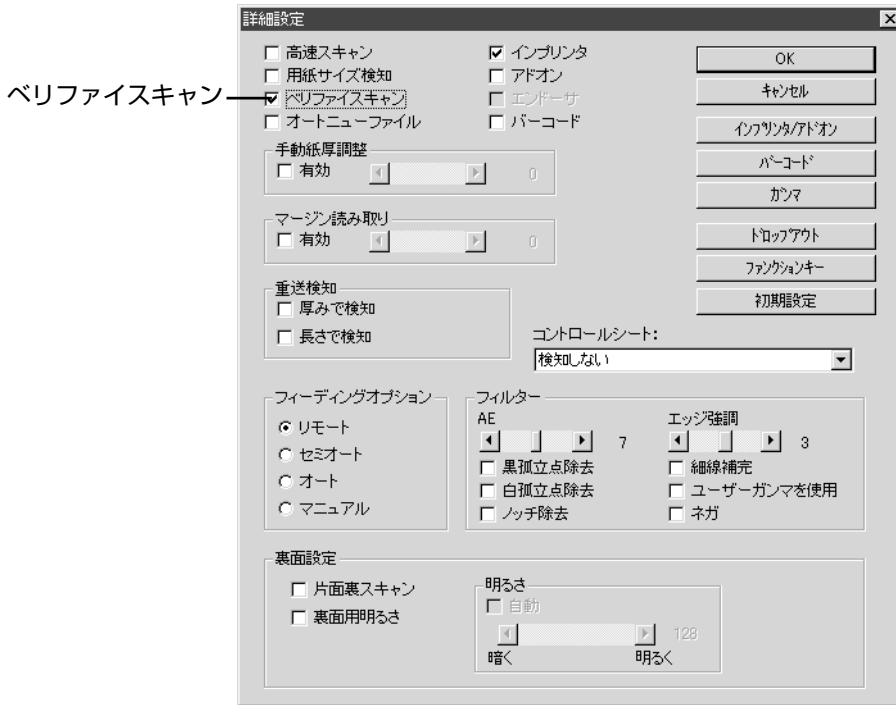
⇒「スキャナの設定」ダイアログが表示されます。

- 2 「スキャナの設定」ダイアログで[詳細]をクリックします。



⇒「詳細設定」ダイアログが表示されます。

3 「ベリファイスキャン」をチェックして選択します。



4 [OK]をクリックして「スキャナの設定」ダイアログに戻ります。

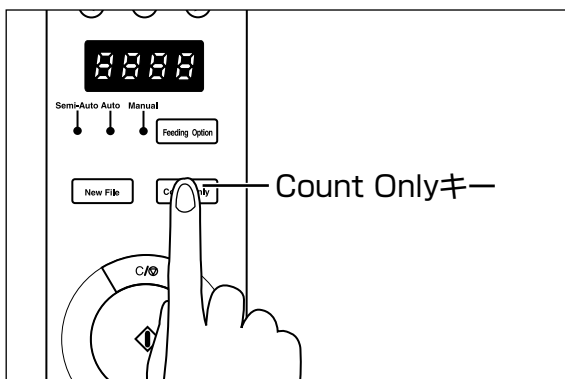
5 [OK]をクリックして操作画面に戻ります。

◆原稿の枚数を入力する

原稿の枚数がわかっている場合

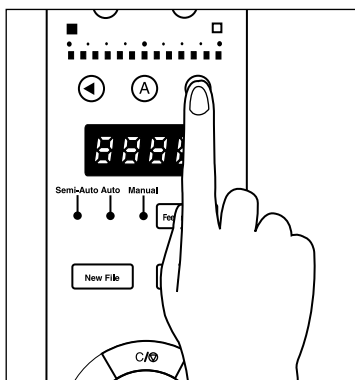
スキャンする原稿の枚数があらかじめわかっている場合は、カウンタ表示部に原稿の枚数を直接入力します。

- 1 操作パネルの Count Only キーを押します。



⇒ Count Only キーと[Semi-Auto]ランプが点灯しスタートキーが緑になります。

- 2 操作パネルの ◀ ▶ キーを押し、原稿の枚数を入力します。



⇒ カウンタ表示部に枚数が表示されます。



メモ

▶ キーを押すとカウンタ表示が増加し、◀ キーを押すと減少します。
ボタンを押しつづけると、数値の増減が速くなります。

- 3 原稿の枚数をセットしたら、Count Only キーを押してカウントオンリーモードを解除します。



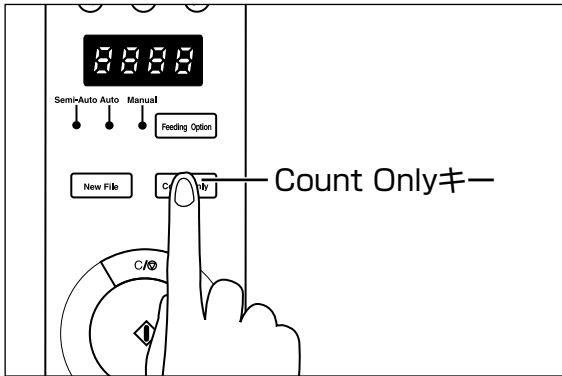
メモ

カウンタ表示をリセットする場合はストップキーを2秒以上押しつづけてください。

原稿の枚数がわかっていない場合

スキャンする原稿の枚数がわかっていない場合は、スキャナ本体のカウント機能を使い原稿の枚数をカウントします。

- 1 操作パネルの Count Only キーを押します。



⇒ Count Only キーと[Semi-Auto]ランプが点灯しスタートキーが緑になります。

- 2 原稿台に原稿をセットし、スタートキーを押します。

⇒ 原稿がカウントされ、カウンタ表示部にカウントした枚数が表示されます。

- 3 原稿のカウントが終了したら、Count Only キーを押してカウントオンリーモードを解除します。



メモ

カウンタ表示をリセットする場合はストップキーを2秒以上押しつづけてください。

2

原稿をスキャンする

◆原稿をスキャンする

原稿をスキャンし、カウンタ表示部の枚数と自動的に照合します。
カウンタ表示部に表示された枚数と実際にスキャンした枚数とが違っている場合には、カウンタ表示部にエラーメッセージが表示されます。

1 選択している給紙方法に応じて、スキャンの操作を行います。

手順については各々のページを参照してください。

リモートの場合 : 「複数枚の原稿をスキャンするとき」(P.21)

セミオートの場合 : 「セミオートスキャン」(P.33)

オートの場合 : 「オートスキャン」(P.36)

手差し給紙の場合 : 「マニュアルスキャン」(P.39)

2 原稿をセットし、スキャンを開始します。

●カウンタ表示部に表示された枚数より実際にスキャンする枚数の方が多い場合

カウンタ表示部に表示された枚数まで原稿をスキャンして停止します。

カウンタ表示部が「U01」のエラー表示になり、コンピュータの画面にもエラーメッセージ(ベリファイカウントエラー)が表示されます。

この場合は、原稿のカウントからもう一度やり直してください。



メモ

原稿の枚数を表示させずにベリファイスキャンを行った場合も「U01」のエラーになり、エラーメッセージが表示されます。

●カウンタ表示部に表示された枚数より実際にスキャンした枚数の方が少ない場合

スキャン終了後、カウンタ表示部が「U02」のエラー表示になり、コンピュータの画面にもエラーメッセージ(ベリファイカウントエラー)が表示されます。

この場合は、スキャン時に原稿が重送された可能性があるため、原稿がすべて読み取られたかどうかを確認してください。




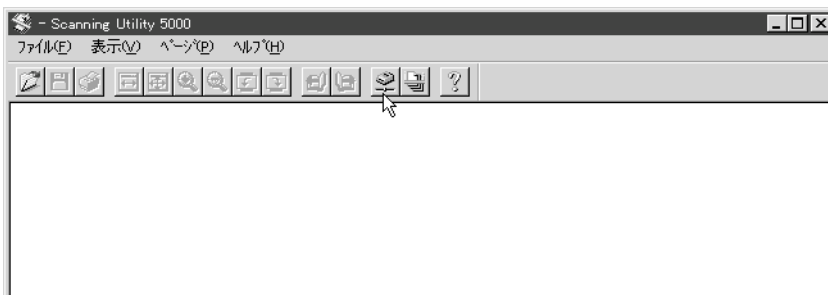
メモ

エラー表示をリセットする場合はストップキーを押してください。

2.4 スキャン条件の設定

原稿をスキャンする際の条件を設定します。
機能に応じたダイアログを選択し、設定を行ってください。
各ダイアログの設定項目の詳細については、参照先のページをご覧ください。

- 1 [ファイル]—[スキャナ設定]を選択するか、ツールバーの  をクリックします。

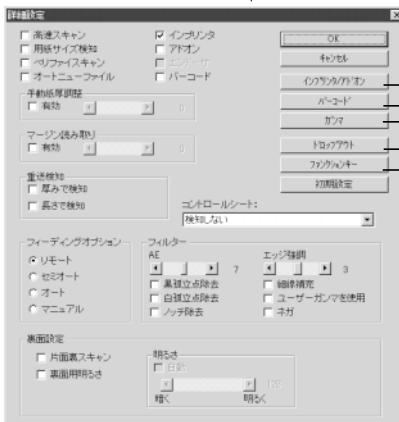


⇒「スキャナの設定」ダイアログが表示されます。

- 2 各設定画面を表示させ、設定を行います。



「スキャナの設定」ダイアログ (→ P.56)



「詳細設定」ダイアログ (→ P.58)

- 「インプリンタ/アドオン設定」(→ P.62)
- 「バーコード設定」(→ P.66)
- 「ガンマカーブ設定」(→ P.71)
- 「ドロップアウト設定」(→ P.73)
- 「ファンクションキー設定」(→ P.74)

基本設定

スキャンするための基本的な条件を設定します。
基本設定は「スキャナの設定」ダイアログで行います。



〈スキャナの設定〉

項目	内容
イメージ選択	<p>読み取りモードを選択します。DR-5020の場合は[白黒][白黒誤差拡散]のみが選択できます。</p> <p>用紙のサイズによっては、選択できるモードに制限があります。詳しくは別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」の「付録」を参照してください。</p> <p>[白黒] スキャンした画像を白黒で取り込みます。</p> <p>[白黒誤差拡散] スキャンした画像を白黒で取り込みます。ハーフトーンのあるグレー部分は誤差拡散法で疑似的に再現します。</p> <p>[グレースケール 4, 16, 256 階調] 写真など、ハーフトーンのある原稿をグレースケールで読み取る時に選択します。階調の数値が大きくなるほど、ファイルサイズは大きくなります。</p> <p>[カラー 3, 6, 12, 24Bit] 写真など、ハーフトーンのある原稿をカラーで読み取る時に選択します。ビットの数値が大きくなるほど、ファイルサイズは大きくなります。</p>
解像度	<p>原稿をスキャンするときの密度 (DPI:Dot Per Inch) を設定します。100、200、210、220、230、240、250、260、270、280、290、300、400 から選択できます。</p> <p>200または300を選択したときは、「詳細設定」ダイアログで[高速スキャン](P.58) を選択できます。</p> <p>用紙のサイズによっては、選択できるモードに制限があります。詳しくは別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」の「付録」を参照してください。</p>

ページサイズ	<p>読み取る原稿サイズを以下の中から選択します。</p> <p>LETTER (8.5 × 11 インチ) LEGAL (8.5 × 14 インチ) A3 (297 × 420mm) A4 (210 × 297mm) A4-R (297 × 210mm) A5 (148 × 210mm) A6 (105 × 148mm) B4(ISO) (250 × 353mm) B4(JIS) (257 × 364mm) B5(ISO) (176 × 250mm) B5(JIS) (182 × 257mm) スキャナの最大サイズ (295 × 432mm)</p> <p>指定したサイズよりも大きい原稿を読み取ると、周囲が欠落します。また、小さい原稿を読み取ると周囲が黒く表示されます。</p> <p>なお、「詳細設定」ダイアログで[用紙サイズ検知](P.58)を選択している場合は、この設定は無視されます。</p>
明るさ	自動設定または手動で明るさを設定します。手動の場合、1～255の範囲で設定できます。
コントラスト	自動設定または手動でコントラストを設定します。手動の場合、1～13の範囲で設定できます。数値を大きくするとコントラストは強くなり、数値を小さくするとコントラストが弱くなります。



メモ

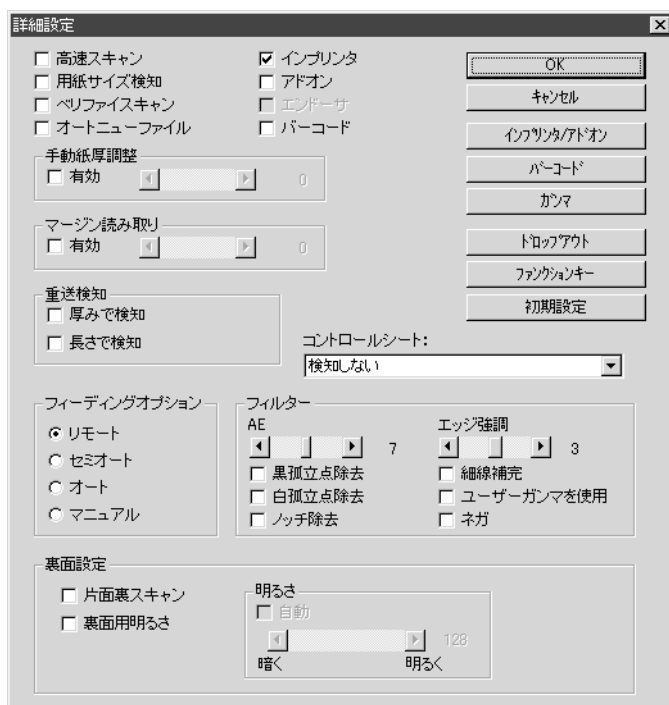
- ・コントラストの設定は、[イメージ選択] の設定が [白黒] の場合、無効です。
- ・DR-5020 では [イメージ選択] の設定が [白黒] の場合、[コントラスト] チェックボックスがグレーになります。

〈ボタン〉





項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。
詳細	「詳細設定」ダイアログ (P.58) を開き、さらに詳細な設定を行います。フィルタの設定やスキャン速度、用紙サイズ検知、コントロールシートの検知などの設定ができます。

詳細設定

スキャン条件の詳細を設定します。
設定は「詳細設定」ダイアログで行います。



項目	内容
高速スキャン	解像度を 200dpi または 300dpi に設定している場合に選択できます。 200dpi の場合は、200 × 100dpi (横 × 縦) でスキャンした画像を 200 × 200dpi (横 × 縦) で出力します。 300dpi の場合は、300 × 150dpi (横 × 縦) でスキャンした画像を 300 × 300dpi (横 × 縦) で出力します。 どちらの場合も素早くスキャンすることができますが、画質は若干劣化します。 高速スキャンの手順については、P.48 を参照してください。
用紙サイズ検知	スキャン時に 1 枚ずつ原稿サイズを検知し、そのサイズで読み取ります。 これを選択すると、「スキャナの設定」ダイアログの[ページサイズ](P.57)の設定は無効になります。
ベリファイスキャン	スキャンする前にカウントした枚数と実際にスキャンした枚数とを照合し、違いがあればエラーを表示します。 ベリファイスキャンの手順については、P.50 を参照してください。
オートニューファイル	連続スキャンが 1 回中断するごとに、区切り信号を発生する設定です。
インプリンタ	スキャンした原稿に任意の文字を印字するインプリンタ機能を有効にします。 この機能を使うためには、オプションのインプリンタユニットが必要です。

アドオン	スキャンした画像に任意の文字を入れるアドオン機能を有効にします。
エンドーサ	エンドーサの使用を有効にします。 この機能を使うためにはブジョンのエンドーサが必要です。
バーコード	原稿内のバーコードを読み取る機能を有効にします。 この機能を使うためにはオプションのバーコードデコーダが必要です。
手動紙厚調整	自動紙厚調整を使用しない場合に、紙厚を手動で設定します。 [有効]をチェックし、   で調整します。 設定範囲は 1 (もっとも薄い紙) ~ 13 (もっとも厚い紙) の範囲で指定します。 この機能は、自動紙厚調整が使えない原稿、表面処理がされている原稿等をスキャンする場合や、自動紙厚調整モードで重送が頻繁に起こる場合に、手動で紙厚を調整します。 なお、この設定はスキャナ本体の操作パネルでも行えます。詳しくは、別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」を参照してください。
マージン読み取り	スキャン領域の上下左右の範囲を調整します。 [有効]をクリックし、   で調整します。 - 10 (10mm 狭く読み取る) ~ +10 (10mm 余分に読み取る) の範囲で指定します。 たとえば、原稿の端の部分が欠けないようにスキャン領域を広めにとりたい場合は+方向に調整し、スキャン結果に黒い枠がつかないようにスキャン領域を狭くとりたい場合は-方向に調整します。
重送検知	原稿を連続してスキャンするとき原稿が複数枚が重なって送られたり、一部が重複して送られたこと (重送) を検知するための方式を選択します。 [厚みで検知] 紙の厚さで重送を検知します。1 枚目の原稿(*)よりも厚い原稿が送られると、スキャナが重送と判断してエラーを表示します。 [長さで検知] 紙の長さで重送を検知します。1 枚目の原稿(*)よりも長い原稿が送られると、スキャナが重送と判断してエラーを表示します。 (*)重送検知は、1 枚目の原稿の厚さや長さを基準として行います。1 枚目の原稿が送られると、スキャナが厚さと長さを記憶します。
コントロールシート	ファンクションシート(P.44)を使う場合の読み取りモードを選択します。 [検知しない] ファンクションシートを検知しません。 [検知して、記録する / スキャンを継続する] ファンクションシートの内容も画像として記録し、スキャンを継続します。 [検知して、記録しない / スキャンを継続する] ファンクションシートの内容は画像として記録せず、スキャンを継続します。 [検知して、記録する / スキャンを停止する] ファンクションシートの内容も画像として記録し、スキャンを停止します。 [検知して、記録しない / スキャンを停止する] ファンクションシートの内容は画像として記録せず、スキャンを停止します。 ファンクションシートを使ったスキャンについては、別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」の「ファンクションシートの利用」を参照してください。

フィーディング オプション	<p>原稿の給紙方法を選択します。</p> <p>[リモート] : 原稿をセットしてソフトウェアからスキャン開始の指示を すると、給紙(スキャン)を開始します。</p> <p>[セミオート] : ソフトウェアからスキャン開始の指示をして原稿をセット した後、スキャナ本体の操作パネルのスタートキーを押す と給紙(スキャン)を開始します。</p> <p>[オート] : ソフトウェアからスキャン開始の指示をして原稿をセット すると、自動的に給紙(スキャン)を開始します。</p> <p>[マニュアル] : ソフトウェアからスキャン開始の指示をした後、手差しで 1枚ずつ原稿をセットします。特に厚い、または薄い原稿 などの場合に使用します。</p> <p>なお、この設定はスキャナ本体の操作パネルでも行えます。詳しくは、別冊 の「DR-5020/5080C 取扱説明書」を参照してください。</p>
裏面設定	<p>原稿の裏面をスキャンする場合に設定します。</p> <p>[片面裏スキャン] 原稿の裏面(スキャナにセットしたとき下向きになる面)をスキャンします。</p> <p>[裏面用明るさ] 裏面を読み取るときの明るさを、1～255の範囲で設定します。◀ ▶をク リックして調整してください。</p>



メモ

- ・ [片面裏スキャン] をチェックすると、[スタートスキャン] ダイアログを開いたときのフィーダーの設定は [片面] になります。
- ・ [片面裏スキャン] をチェックし、フィーダーの設定を [両面] にしてスキャンを行うと、[詳細設定] ダイアログを開いたときに [片面裏スキャン] のチェックマークがグレーになります。
- ・ グレーになった [片面裏スキャン] のチェックマークは、クリックすれば元に戻ります。

〈フィルタの設定〉

画像処理フィルタの設定を行います。

項目	内容
AE	自動露出機能(画像を選択した範囲の明暗によって明度とコントラストの設定をすること)のレベルを設定します。◀ ▶をクリックして1～13の範囲で選択します。出荷時の値は7です。
エッジ強調	文字の輪郭を強調したり、写真などで画像の粗さを緩和したりするレベルを設定します。◀ ▶をクリックして1～5の範囲で選択します。出荷時の設定は3です。
黒孤立点除去	白地の中で孤立した黒い点(1ドット)を自動的に消去します。
白孤立点除去	黒地の中で孤立した白い点(1ドット)を自動的に消去します。
ノッチ除去	輪郭から飛び出している部分(ノッチ)を自動的に消去します。
細線補完	細線やうすい原稿をスキャンしたときに発生するかすれやとぎれを軽減します。
ユーザーガンマを使用	[ガンマ]ボタンで読み込んだガンマデータを実際に使用する場合にチェックします。
ネガ	スキャンした画像を反転して出力します。



メモ

- ・ [AE]は、[イメージ選択]の設定が[白黒]の場合に有効です。
- ・ [エッジ強調]は、全てのモードで有効です。
- ・ [黒孤立点除去]、[白孤立点除去]、[ノッチ除去]、[細線補完]は、[イメージ選択]の設定が[白黒]、[白黒誤差拡散]、[カラー 3Bit]の場合に有効です。

〈ボタン〉

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。
インプリンタ/ アドオン	「インプリンタ/アドオン設定」ダイアログ (P.62) を開きます。スキャンした原稿に印字するインプリンタ機能(オプションのインプリンタユニットが装着されている場合)や、スキャン結果の画像に文字を付加するアドオン機能の設定を行います。
バーコード	「バーコード設定」ダイアログ (P.66) を開きます。オプションのバーコードリーダーが装着されている場合に、バーコードの読み取りに関する設定を行います。
ガンマ	「ガンマカーブ設定」ダイアログ (P.71) を開きます。色や階調の表現をするガンマデータを読み込みます。 読み込んだガンマデータは、[ユーザーガンマを使用]にチェックをつけると有効になります。
ドロップアウト	「ドロップアウト設定」ダイアログ (P.73) を開きます。原稿の中の特定の色を読み取らない(ドロップアウトする)ように設定します。この機能はDR-5080C の場合のみ有効です。
ファンクション キー	「ファンクションキー設定」ダイアログ (P.74) を開きます。スキャナ本体のファンクションキーに、特定の機能を割り当てる設定を行います。
初期設定	設定を出荷時の状態に戻します。



メモ

ドロップアウトは、[イメージ選択]の設定が[白黒]、[白黒誤差拡散]、[グレースケール]の場合に有効です。

2

原稿をスキャンする

インプリンタ／アドオン設定

インプリンタ(オプション)を使用すると、スキャンした原稿に任意の文字やカウンタを印字できます。また、アドオン機能を使用すると、スキャン結果の画像に任意の文字やカウンタを付加(アドオン)できます。

インプリンタで印字、またはアドオン機能で付加する文字列その他の条件を、「インプリンタ／アドオン設定」ダイアログで設定します。

ここで設定した内容が、インプリンタ・アドオンの両方に適用されるため、インプリンタで印字される文字列とアドオン機能で付加される文字列は必ず同じになります。



メモ

- ・インプリンタが装着されていない場合でも、アドオン機能は使用できます。
- ・アドオンの設定をして、原稿の両面をスキャンすると、原稿のおもて面(給紙時に上向き)の画像に対して文字がアドオンされます。

項目	内容
文字列	<p>印字／アドオンする内容を入力します。 入力できる文字は以下のとおりです。(すべて半角です) 最大 32 文字(*)まで入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数字(0 ~ 9) ・ アルファベット(大文字・小文字) ・ スペース(空白) ・ 以下の記号 ! " # \$ % & ' () * + - . / : ; < = > ? @ ^ _ { } ~ ` , <p>上記の文字は、入力したものがそのまま印字／アドオンされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ \ (または ¥) , [,] は、¥の後にアドオンする記号を続けて入力します。 ¥¥ → \ (または ¥), ¥[→ [, ¥] →] <p>\ (または ¥) の設定は、出荷時 \ に設定されています。¥ を印字／アドオンする場合には担当サービスにお問い合わせください。</p> <p>それ以外に、特殊な文字列として、カウンタ・時刻・日付・矢印が指定できます。</p>

〈カウンタ〉

カウンタを印字/アドオンする場合は、数字を [] で囲んで指定します。
[]内の数字がカウンタの開始番号になり、その桁数がカウンタの桁数になります。

カウンタを2つにする場合は、[カウンタ2.カウンタ1]の形式で、2つのカウンタを "." (ピリオド) で区切って入力します。(入力例参照)

カウンタの増加量や増加のタイミングなどは、後述の「カウンタ1、カウンタ2の設定」で設定します。(カウンタが1つだけの場合は[カウンタ1]で設定します。)

[入力]	[印字/アドオン結果]
CANON[10001.00001]	CANON 10001 00001

原稿をスキャンした時刻を印字/アドオンする場合は、"¥TIME"と入力します。
下記の例のように、24時間表示の時刻が8桁で印字/アドオンされます。
(例は16時28分30秒の場合)

[入力]	[印字/アドオン結果]
¥TIME	16:28:30

〈日付〉

原稿をスキャンした日付を印字/アドオンする場合は、Y(年),M(月),D(日)の組み合わせで"¥MDY","¥DMY","¥YMD"のいずれかを入力します。

下記の例のように、西暦表示の年月日が10桁で印字/アドオンされます。
年・月・日の間は"/"で区切られます。(例は2001年3月4日の場合)

[入力]	[印字/アドオン結果]
¥YMD	2001/03/04

〈矢印〉

矢印を印字/アドオンする場合は、下記のように入力します。

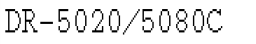


[入力]	[印字/アドオン結果]
¥u	↑
¥d	↓
¥l	←
¥r	→

(*)

正確には、印字/アドオンできる文字数が最大32文字までとなります。
カウンタ・日付・時刻などが入ると、入力した文字数が32文字以内でも、実際に印字/アドオンされる文字数は32文字を超えることがあります。その場合はエラーメッセージが表示されます。

下記の例では、スペースを含め、入力は25文字ですが、印字/アドオン結果は32文字となります。

[入力]	[印字/アドオン結果]
CANON ¥YMD ¥TIME [000001]	CANON 2001/03/04 16:28:30 000001

<p>X方向の 印字位置 (mm)</p>	<p>アドオンを行う場合に、給紙方向に対して給紙口の左端から何 mm の位置に文字を付加するかを指定します。</p>
<p>Y方向の 印字位置 (mm)</p>	<p>原稿の先端から何 mm の位置に文字を印字/アドオンするかを指定します。</p>
<p>印字タイミング</p>	<p>どのページに印字/アドオンするかを選択します。</p> <p>[ページ] すべてのページに印字/アドオンします。</p> <p>[ファイル区切り] ファイル区切りシートが入ったとき、またはスキャナのオートニューファイルかニューファイルボタンにより保存先のファイルが変わると、ページが印刷されるか、またはファイル区切りシートが入った次のページか、スキャナのオートニューファイルかニューファイルボタンにより変えられた保存先のファイルに追加されます。</p>
<p>アドオンタイプ</p>	<p>アドオンを行う場合に、データ上にどのように文字を付加するかを選択します。</p> <p>[白地に黒] 白地に黒文字で印字/アドオンします。 </p> <p>[黒地に白] 黒地に白文字で印字/アドオンします。 </p> <p>[イメージに黒] 画像の上に黒い文字を印字/アドオンします。 </p>
<p>フォント ローテーション</p>	<p>印字/アドオンするフォントの回転角度を以下の中から選択します。</p> <p>[なし] (出荷時の設定) 回転しません。</p> <p>[90度] 時計回りに90度回転します。</p> <p>[180度] 180度回転します。</p> <p>[270度] 時計回りに270度回転します。</p>

小さいフォント	文字を小さいフォント（8×7ドット）で印字/アドオンします。 （通常のフォントは12×12ドットです。） なお、アドオンの場合はスキャンする解像度によって画像としての文字の大きさが変わります。
通常のフォント	
小さいフォント	
右から印字	文字を右から左へ印字/アドオンします。

〈カウンタ 1、カウンタ 2 の設定〉

文字列の中に、2種類までのカウンタを設定できます。カウンタを設定したときはここで詳細を設定します。

項目	内容
カウントアップ タイミング	カウンタの数値が増えるタイミングを、以下の中から選択します。 [ファイル区切り] ファイル区切りシートが入ったとき、またはスキャナのオートニューファイルかニューファイルボタンにより保存先のファイルが変わったとき [ページ] ページが変わったとき [なし] なし
カウントアップ 量	カウンタの増加量を設定します。
リセット タイミング	カウンタをリセットするタイミングを、以下の中から選択します。 [ファイル区切り] ファイル区切りシートが入ったとき、またはスキャナのオートニューファイルかニューファイルボタンにより保存先のファイルが変わったとき [ページ] ページが変わったとき [なし] なし
リセット値	カウンタの開始値(リセット後の最初の値)を設定します。出荷時の設定は0です。

〈ボタン〉

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。

バーコード読み取り設定

バーコードを読み取るための設定を行います。この設定は、オプションのバーコードデコーダを取り付けているときのみ有効です。

バーコードの設定は、「バーコード設定」ダイアログで行います。

バーコード設定

バーコードの種類

- UPC
- JAN
- Codabar
- ITF
- Code 39
- Code 128

バーコードの数

デコード面

表面 裏面

範囲指定有効

X方向の始点

X方向の終点

Y方向の始点

Y方向の終点

mm



メモ

- ・複数のバーコードが水平に並んでいる場合、認識エラーを起こすことがあります。バーコードの領域設定で1つのバーコードを指定してください。
- ・アドオンコードの付いているバーコードと付いていないバーコードを同時に検知することはできません。スキャンする原稿に、アドオンコードの付いているバーコードと付いていないバーコードが混在している場合は、必ずバーコードの領域設定で、検知する領域を設定してからスキャンしてください。
- ・スキャンの設定が400dpi、両面の場合は、A4の幅以内にあるバーコードしか検知できません。
- ・複数のバーコードが混在する原稿をスキャンする場合に、特定のバーコードだけを検知させたいときは、バーコードの領域設定で検知する領域を設定してください。スキャン領域の設定で領域設定をした場合は、スキャン領域の外にあるバーコードも検知されます。
- ・バーコードの種類が不明の場合は、全てのバーコードをチェック（自動検知）し、チェックデジットを読み取らないように設定してスキャンします。
- ・バーコードの読み取りを行うと、¥Scanning Utility 5000 フォルダに Barcode.log が自動的に作成されます。

〈バーコードの種類〉

読み取るバーコードの種類とその詳細を設定します。

項目	内容
UPC	UPCコード(UPC-A, UPC-E)を読み取る場合にチェックします。
JAN	JANコードを読み取る場合にチェックします。
Codabar	Codabarコードを読み取る場合にチェックします。
ITF	ITFコード(インダストリアル2 of 5含む)を読み取る場合にチェックします。
Code39	Code39コードを読み取る場合にチェックします。
Code128	Code128コードを読み取る場合にチェックします。

〈読み取りの設定〉

項目	内容
バーコードの数	1ページ中で読み取るバーコード数を、1～4の範囲で指定します。
デコード面	バーコードを読み取る原稿面(表面・裏面)を選択します。
(読み取り範囲)	バーコードを読み取る範囲を設定します。「範囲指定有効」をチェックして数値を入力します。

〈ボタン〉

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。

◆ UPC-A コードの詳細設定

UPC-A コードの詳細を設定します。



[入力]-[アドオン]

アドオンコードを読み取る場合にチェックします。ここでの設定はUPC-Eコードにも反映されます。

[出力]-[チェックデジット]

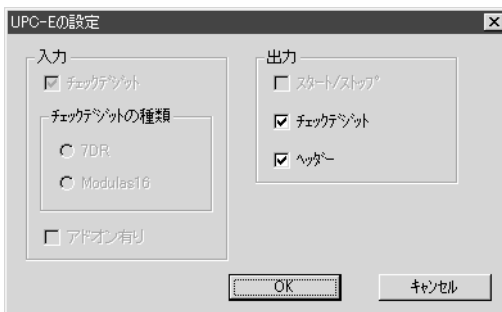
チェックデジットコードを出力する場合にチェックします。

[出力]-[ヘッダー]

UPCコードでヘッダーを出力する場合にチェックします。

◆ UPC-E コードの詳細設定

UPC-E コードの詳細を設定します。



[出力]-[チェックデジット]

チェックデジットコードを出力する場合にチェックします。

[出力]-[ヘッダー]

UPCコードでヘッダーを出力する場合にチェックします。

◆ JAN コードの詳細設定

JAN コードの詳細を設定します。



[入力]-[アドオン有り]

アドオンコードを読み取る場合にチェックします。

◆ Codabar コードの詳細設定

Codabar コードの詳細を設定します。



[入力]-[チェックデジット]

チェックデジットコードを読み取る場合にチェックします。

[入力]-[7DR]

Codabarでチェックデジットの計算が7DRのコードを読み取る場合にチェックします。

[入力]-[Modulus16]

Codabarでチェックデジットの計算がModulus16のコードを読み取る場合にチェックします。

[出力]-[スタート/ストップ]

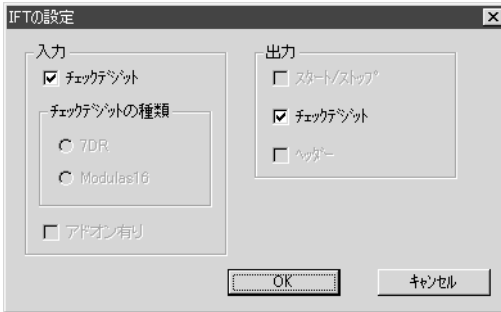
スタート/ストップコードを出力する場合にチェックします。

[出力]-[チェックデジット]

[入力]-[チェックデジット]がチェックされている場合にチェックデジットコードを出力する/しないを設定できます。

◆ ITF コードの詳細設定

ITFコード（インダストリアル 2 of 5 含む）の詳細を設定します。



[入力]-[チェックデジット]

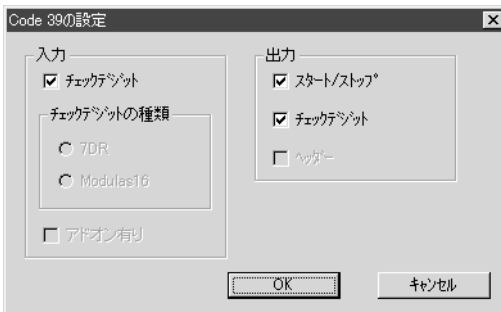
チェックデジットコードを読み取る場合にチェックします。

[出力]-[チェックデジット]

[入力]-[チェックデジット]がチェックされている場合にチェックデジットコードを出力する/しないを設定できます。

◆ Code39 コードの詳細設定

Code39 コードの詳細を設定します。



[入力]-[チェックデジット]

チェックデジットコードを読み取る場合にチェックします。

[出力]-[スタート/ストップ]

スタート/ストップコードを出力する場合にチェックします。

[出力]-[チェックデジット]

[入力]-[チェックデジット]がチェックされている場合にチェックデジットコードを出力する/しないを設定できます。

ガンマカーブ設定

ガンマカーブの設定を行います。



メモ

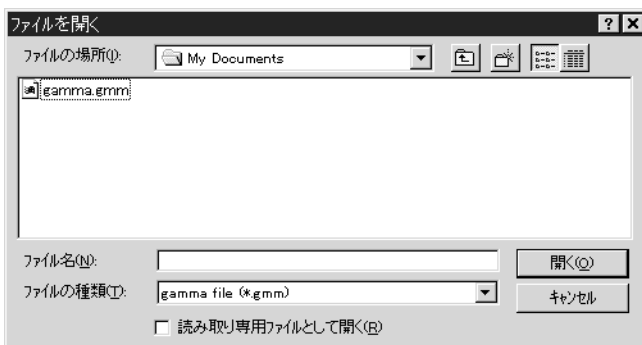
ガンマカーブ設定とは、256階調の明るさの入力値（読み取り）に対する出力値（コンピュータへの出力）を、ユーザーが任意に作成したガンマカーブデータを使用して調整します。ガンマカーブは、グレー（白黒用）、赤、緑、青を別々に設定します。なお、ここで設定したガンマカーブの設定は、フィルタの設定(P.60)の中の[ユーザーガンマを使用]をチェックしなければ有効になりません。

1 ガンマカーブに合わせたガンマカーブデータを作成します。(P.72「ガンマカーブデータの作成」)

2 カーブ選択からガンマカーブを設定する色を選択します。



3 ダウンロードボタンを押して作成したガンマカーブデータを選択します。



4 [開く]をクリックするとガンマカーブを設定し[詳細設定]ダイアログに戻ります。

5 他の色のガンマカーブを設定する場合は 1 ～ 4 の手順を繰り返します。

2

原稿をスキャンする

◆ガンマカーブデータの作成

ガンマカーブデータは256階調の入力値に対する出力値が書かれている258行のテキストファイル (*.gmm) です。

ガンマカーブデータは、最初の1行目にコメント、2行目にデータ数を表す[256]を必ず記入します。

3行目から入力値に対する出力値になり、3行目から入力値の[0],[1],[2]に対する出力値と続き、258行目で入力値の[255]の出力値を設定します。

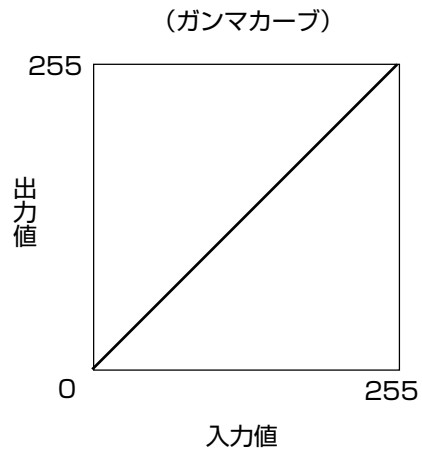
ガンマカーブデータの数値を小さくすると画像は暗くなり、数値を大きくすると明るくなります。

◆ガンマカーブデータの作成例

通常は、右上がりのガンマカーブですが、下段のガンマカーブデータでは出力値をすべて反転させているため画像が反転されて出力されます。

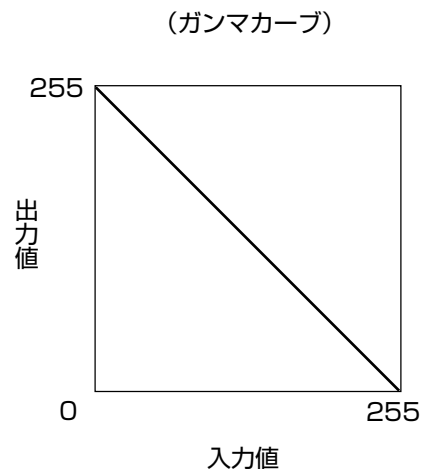
ガンマカーブデータ

```
1行目 : gamma curve
2行目 : 256
3行目 : 0
4行目 : 1
5行目 : 2
...
253行目 : 250
254行目 : 251
255行目 : 252
256行目 : 253
257行目 : 254
258行目 : 255
```



ガンマカーブデータ (反転用)

```
1行目 : Inverted linear gamma curve
2行目 : 256
3行目 : 255
4行目 : 254
5行目 : 253
...
253行目 : 5
254行目 : 4
255行目 : 3
256行目 : 2
257行目 : 1
258行目 : 0
```

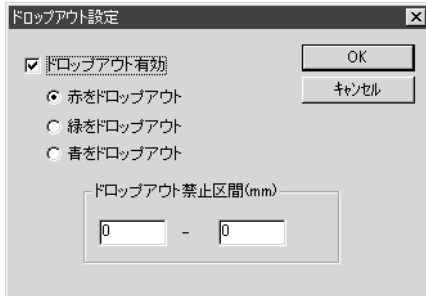


ガンマカーブデータの情報は、スキャナ内部で保持され、スキャナの電源を切っても、他のガンマカーブデータを読み込むまではガンマカーブの情報を変更されません。

ドロップアウト設定 (DR-5080C のみ)

ドロップアウト設定はスキャンする原稿から赤、青、緑の指定した色を読み取らない（ドロップアウトする）ように設定します。

設定は「ドロップアウト設定」ダイアログで行います。



項目	内容
ドロップアウト有効 (色の選択)	ドロップアウトを行う場合にチェックします。 [赤をドロップアウト] 原稿中の赤色の部分を読み取らないようにします。 [緑をドロップアウト] 原稿中の緑色の部分を読み取らないようにします。 [青をドロップアウト] 原稿中の青色の部分を読み取らないようにします。
ドロップアウト禁止区間 (mm)	ドロップアウトを行わない範囲を指定できます。左側に始める位置を、右側に終了する位置を指定します。それぞれ用紙の先端からの長さを mm 単位で指定します。

〈ボタン〉

項目	内容
OK	設定した内容を反映してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。

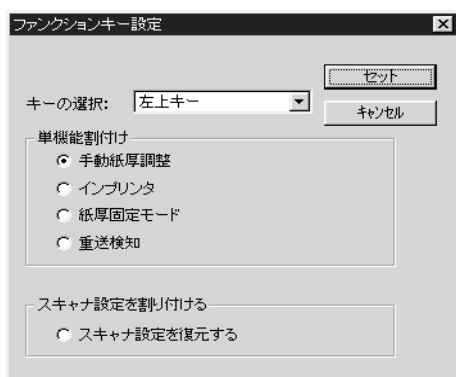


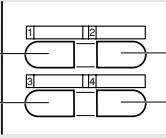
メモ

- ・ドロップアウトは、[イメージ選択]の設定が[白黒]、[白黒誤差拡散]、[グレースケール]の場合に有効です。
- ・ドロップアウト禁止区間を設定した場合、スキャンした画像にドロップアウトの禁止区間の境界線が黒い線として出ることがあります。

ファンクションキーの割り当て

スキャナ本体のファンクションキーに特定の機能を記憶させることができます。ファンクションキーの設定は「ファンクションキー設定」ダイアログで行います。



項目	内容
キーの選択	登録するキーをプルダウンメニューから選択します。 
単機能割付け	ファンクションキーには次の4つの機能を割り付けることができます。それぞれの機能および出荷時の設定については、別冊の「DR5020/5080C取扱説明書」の「ファンクションキーでの設定」(P.55)をご覧ください。 [手動紙厚調整] 紙厚を手動で調整します。 [インプリンタ] オプションでインプリンタが装着されているとき、インプリンタを使用するかどうかを選択します。 [紙厚固定モード] 紙厚を固定にします。 [重送検知] 原稿が複数枚が重なって送られたり、一部が重複して送られたこと（重送）を自動的に検知します。
スキャナ設定を割り付ける	ファンクションキーには上記の単機能の他にスキャナ設定を登録することもできます。 [スキャナ設定を復元する] この機能を選択し、[セット] ボタンをクリックしたときに設定されているスキャナ設定をファンクションキーに登録します。

〈ボタン〉

項目	内容
セット	選択した機能を登録してダイアログを閉じます。
キャンセル	設定した内容を反映せずにダイアログを閉じます。

第 3 章

困ったときは

ここでは、トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明します。

- 3.1 エラーメッセージが表示される時 76
- 3.2 スキャン結果がおかしいとき 78

3.1 エラーメッセージが表示されるとき

原稿が正常にスキャンできない場合、エラーメッセージが表示されることがあります。エラーの種類を確認し、以下に示す方法で対処してください。

メッセージ 紙詰まりです。原稿を取り除いてください。

対処方法 スキャナ本体で紙詰まりが発生しています。詰まっている用紙を取り除いてください。詳しくは、別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」を参照してください。

メッセージ カバーが開いています。カバーを閉じてください。

対処方法 スキャナ本体のカバー(上部ユニット)が開いています。カバーを閉じてください。

メッセージ スキャナが見つかりません。ケーブルを確認してください。

対処方法 1 コンピュータがスキャナを認識していません。コンピュータとスキャナが正常に接続されているかどうかを確認してください。

対処方法 2 コンピュータがスキャナを認識している状態でこのメッセージが出る場合があります。この場合は、コンピュータとSCSIカードが合っていないことが考えられ、スキャナのユーザモードの設定で同期転送をOFFにすることで、エラーメッセージが出なくなることもあります。スキャナの同期転送をOFFにしてもエラーメッセージが出る場合は、コンピュータまたはSCSIカードのメーカーにお問い合わせください。

メッセージ パラメータが正しくありません。やり直してください。

対処方法 「スキャナの設定」ダイアログでのスキャン条件設定の際、設定できない値を指定しました。設定可能な値に変更してください。

メッセージ スキャナにリセットがかかりました。やり直してください。

対処方法 画面に表示されるメッセージに従い、電源のON/OFFをやり直してください。

メッセージ 原稿がありません。原稿をセットして、やり直してください。

対処方法 原稿がスキャナにセットされていません。原稿をセットしてから、もう一度スキャンの指示をしてください。

メッセージ スキャナがビジーです。カウントオンリーモードになっていないか、確認してください。

対処方法 設定が「カウントオンリーモード」(原稿の枚数を確認するモード)(P.52)になっている可能性があります。カウントオンリーモードを解除してから、もう一度スキャンの指示をしてください。

メッセージ スキャナがビジーです。しばらくして、やり直してください。

対処方法 スキャナが他のデータを処理中のため、新しい原稿をスキャンできません。しばらく待ってから操作をやり直してください。

メッセージ ベリファイカウントエラーです。やり直してください。

対処方法 ベリファイスキャン(P.50)で、設定した原稿枚数とスキャンした枚数が一致していませんでした。カウンタ表示部に「U01」と表示されているときは、原稿のカウンタからやり直してください。「U02」と表示されているときは、すべての原稿がスキャンされているか確認してください。

メッセージ 現在の設定ではスキャンできません。設定をやり直してください。

対処方法 スキャン条件の設定が不適当です。設定を変更してから、もう一度スキャンの指示をしてください。

メッセージ ファイルアクセスエラーです。他のアプリケーションで使用中でないか？
書込み禁止になっていないか確認してください。

対処方法 開こうとした画像ファイルは、他のアプリケーションで使用中のため開けません。他のアプリケーションの側でファイルを閉じてください。
または、保存しようとした画像ファイルが書込み禁止になっているため、上書き保存できません。別の名前で保存してください。

メッセージ ファイルは既に存在します。上書きしますか？

対処方法 保存しようとしている画像ファイルと同名のファイルが既に存在します。上書きしてよい場合は[はい]をクリックしてください。上書きしない場合は[いいえ]をクリックし、別の名前で保存してください。

メッセージ **原稿が斜行しました。**
原稿を取り除きスキャンをやり直してください。

対処方法 原稿が斜めに給紙されました。
原稿を取り除いたあと、スキャンをやり直してください。原稿を取り除く際は、破れたりしないようにゆっくりと引き抜いてください。

メッセージ **原稿が重送しました。**
原稿とスキャンした画像を確認してスキャンをやり直してください。

対処方法 原稿が重なってスキャンされました。スキャンした画像と重送された原稿を確認して、スキャンをやり直してください。
また、紙厚・紙サイズの異なる原稿が混在した束をスキャンすると、重送検知エラーになります。全ての原稿を同じ紙厚・紙サイズにするか、重送検知をOFFにしてください。(P.57)

3.2 スキャン結果がおかしいとき

スキャン結果の画像に問題がある（画像が鮮明でなかったり、画像に筋や汚れが入ったりするなど）場合は、以下の原因が考えられます。状況を確認し、対応する処置をしてください。

● スキャナ本体の読み取りガラスやローラーが汚れている

読み取りガラスやローラーが汚れていると、スキャン結果の画像にもその汚れが出てしまいます。

→読み取りガラス、ローラーの清掃をしてください。清掃の方法については、別冊の「DR-5020/5080C 取扱説明書」の「第5章 日常のお手入れ」を参照してください。

● スキャン条件が不適當

スキャン条件の設定が不適當だと、スキャン結果の画像が不鮮明になったり、黒ずんだ感じになったりします。

→「明るさ」などの設定を確認してください。

スキャン結果の画像がぼやけたり、原稿が全く読み取れなかったりする場合は、「明るさ」の設定値が高すぎる可能性があります。

また、スキャン結果の画像が黒ずんだ感じになる場合は、「明るさ」の設定値が低すぎる可能性があります。

● Scanning Utility 5000 が正しく動作していない

スキャン条件を調整してもまだ正しくスキャンできない場合は、Scanning Utility 5000が正しく動作していない可能性があります。

→Scanning Utility 5000を再インストールしてください。(P.7「1.2 Scanning Utility 5000のインストール」)

● その他の原因

上記の処置をしても問題が解消されない場合は、お買い求めの販売店または担当サービスまでご連絡ください。

索引

－英数字－

1枚だけスキャンして	
スキャン結果を確認するとき	24
AE(自動露出機能)	60
BMP	26
Codabar	67,69
Code128	67
Code39	67,70
Count Only キー	52,53
ITF	67,70
JAN	67,69
JBIG	26
JPEG	26
Scanning Utility 5000 の アンインストール	11
Scanning Utility 5000 の インストール	7
Scanning Utility 5000 の基本操作	12
TIFF	26
UPC	67,68

－あ行－

明るさ	20,57
アドオン	59,62
アドオンタイプ	64
アプリケーションの終了	12,15
アンインストール	11
イメージ選択	20,56
いろいろなスキャン方法	30
印刷	28
印字位置	64
印字タイミング	64
インストール	7
インストールの準備	7
インプリンタ	58,62,74
インプリンタ/アドオン設定	62
ウィンドウに合わせる(表示)	15
ウィンドウ幅に合わせる(表示)	15
裏面設定	60
裏面用明るさ	60
エッジ強調	60
エラーメッセージ	76
エンドーサ	59
オート	30,36,60

オートニューファイル	58
------------	----

－か行－

解像度	20,56
カウントアップタイミング	65
カウントアップ量	65
拡大	15
画素単位に出力(プリント形式)	14,28
片面裏スキャン	60
紙厚固定モード	74
画面の説明	13
カラー	56
ガンマカーブ設定	71
ガンマカーブデータ	72
起動	12
キーの選択	74
基本設定	56
基本操作	12
基本的なスキャン条件	20
給紙方法	30,60
給紙方法の選択	31
グレースケール	56
グレー表示	15
黒孤立点除去	60
原稿セットとスキャン	21
原稿枚数のカウント	52,53
高速スキャン	48,58
コントラスト	20,57
コントロールシート	45,59

－さ行－

細線補完	60
システム環境	6
実寸に合わせる(プリント形式)	14,28
重送検知	59,74
終了	12
縮小	15
手動紙厚調整	59,74
「詳細設定」ダイアログ	55,58
白黒	56
白黒誤差拡散	56
白孤立点除去	60
スキャナコントロールシート	44,45
スキャナ設定	14,20,55

スキャナ設定を復元する	74
スキャナ設定を割り付ける	74
スキャナ選択	15
スキャナとコンピュータの準備	19
「スキャナの設定」ダイアログ	55,56
スキャン1ページ	14,24,27
スキャン結果がおかしいとき	78
スキャン結果	
－印刷	28
－確認	25
－直接印刷	43
－保存	26,27
スキャン条件の設定	20,55
スキャン中止	14
スキャンの基本的なながれ	18
スキャンの手順	19
スキャンバッチファイル	14,21
スキャンバッチプリント	14,43
ステータスバー	13,15
セットアップ CD-ROM	7
セミオート	30,33,60
センサ	37

－た行－

単機能割付け	74
小さいフォント	64
ツールバー	13,15
ツールバー(画面の説明)	16,25
次のページ	15
デコード面	67
ドロップアウト禁止区間	73
ドロップアウト設定	73
ドロップアウト有効	73

－な行－

ネガ	60
ノッチ除去	60

－は行－

バーコード	59
バーコードの数	67
バーコード読み取り設定	66
バージョン情報	16
左回転	15
表示メニュー	15
開く	14,29
ファイル区切りシート	44,47

「ファイル名を付けて保存」	
ダイアログ	26
ファイルメニュー	14
ファイルを開く	29
ファンクションキーの割り当て	74
ファンクションシート	44
フィーディングオプション	32,60
フォントローテーション	64
複数枚の原稿をスキャンするとき	21
プリンタの設定	14
プリント	14
プリント形式	14,28
ページサイズ	20,57
ページに名前を付けて保存	14,27
ページメニュー	15
ベリファイカウントエラー	54
ベリファイスキャン	50,58
ヘルプメニュー	16
保存	26
保存形式	26

－ま行－

マージン読み取り	59
前のページ	16
マニュアル	30,39,60
マルチ TIFF	26,27,29
右回転	15
右から印字	64
メニューバー(画面の説明)	13,14
文字列(インプリンタ/アドオン)	62

－や行－

ユーザーガンマを使用	60
用紙サイズ検知	58
用紙に合わせる(プリント形式)	14,28

－ら行－

リセットタイミング	65
リセット値	65
リモート	21,30,60
両面スキャン	42